

地域交流センター活動報告書

平成 27 年度



愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	1
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業 平成 27 年度第 5 回「ホームカミングデー」	4
2. 看護実践研究セミナー	12
3. 思春期保健スキルアップ研修会	15
4. 高校生の生命化学体験プログラムえひめ高校生生体機能研究プログラム ーホメオスタシスの探求ー	24
5. ブック&メディカルトーク	29
6. おもしろ理科教室（学生祭）	30
7. 地域包括ケア人材育成等支援事業開催概要	33
8. 第 5 回とべ子育てフェスタ	38
9. 2015 子どもの夢プロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験	42
10. リレー・フォー・ライフ（RFL）	45
11. 砥部町赤ちゃんふれあい体験	48
III 調査研究	
1. 地域包括ケアシステムにかかわる地域ニーズ調査	51
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	54
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	62
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体への専門職や一般の方の相談対応	66
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	71
5. 行政や各種関係団体に理事・委員等の活動	75
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	93
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	95
VI 地域への施設開放状況	100
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	102
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規定	103
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規定	105
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	107

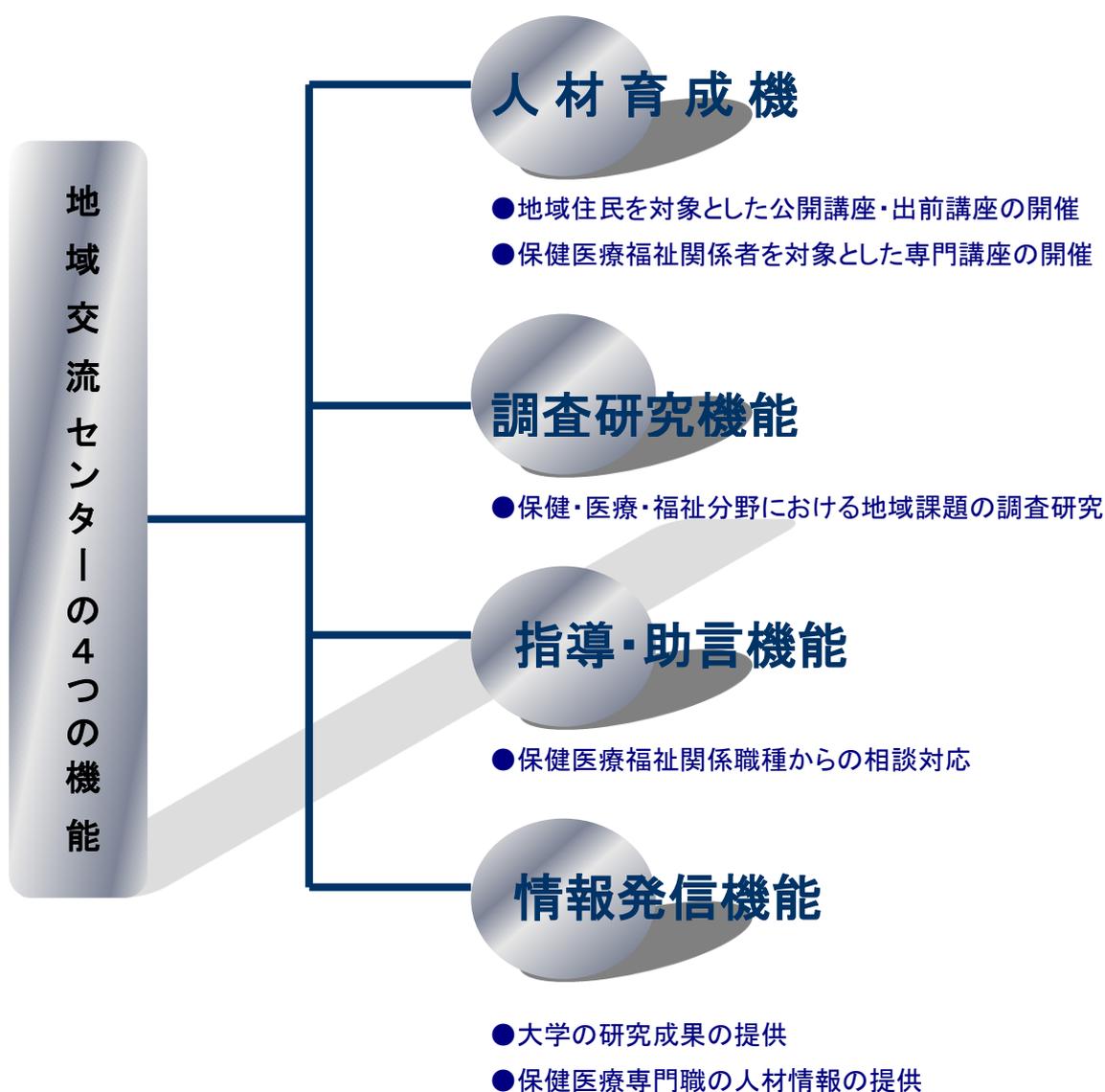
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成16年4月に設置した。

2 地域交流センターの4つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

II 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 平成 27 年度第 5 回「ホームカミングデー」 (同窓会木蓮会との共催事業)

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 連携協力機関

同窓会と大学（地域交流センター・学生委員会）の共催事業とする。

3) プロジェクトチーム

○遠方の卒業生参加の便宜を図り、木蓮会共催のもと、木蓮会総会開催日に併せて実施することとした。

○特別講演を企画、その内容は職業の専門性ではなく、専門職業人として人間形成に係わるものとした。

【実行委員会】

実行委員長：中越利佳

実行委員：地域交流センター員

センター員以外の実行委員

看護師分野：青木講師、中平講師、藤原助教、宮宇地助教

助産師分野：森助教、高田助教

保健師分野：田中准教授、奥田講師

臨床検査技師分野：山岡准教授、岡村助教

【プロジェクトの進行】

平成 27 年 2 月	HCD プログラム、開催日決定 平成 26 年度卒業式に卒業生へ案内チラシ配布
4 月	分科会テーマ、ゲストスピーカーの決定 参加促進方策の検討
4 月末	ゲストスピーカー、特別講師依頼文書発送
5 月末	平成 25・26 年度卒業生への HCD 参加案内文書、 チラシの発送 所属長への参加依頼協力文書発送
6 月 5 日	各分科会担当者との最終打ち合わせ

4) 事業内容

- (1) 日時 平成27年6月20日(土) 10:00~12:30
10:00~全体会・特別講演 11:20~分科会
- (2) 場所 医技大キャンパス、150・117・215・217・355 講義室
- (3) 参加者数 : 191名 内訳: 卒業生75名、在校生98名、教員18名
- (4) 実施内容

①全体会: 学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院保健医療学研究科説明

特別講演講師: 岩本 里織 氏 徳島大学大学院

ヘルスバイオサイエンス研究部地域看護学分野教授

テーマ

「卒業生からのメッセージ」(講演要旨)



愛媛県立医療技術短期大学1期生で、現在、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部地域看護学分野教授で、教育、研究にご活躍の岩本里織先生から卒業生へのメッセージと題して、ご講演をいただきました。

講演では、医療技術短期大学時代から保健師専攻科時代のエピソードについて紹介があり、大学の施設は今も変わらないなあ、歴史を積み重ねているなあ、先生達はとてもお若いなあ・・・とスライドを見せていただきながら感慨にふけていました。

また、愛媛県保健師として地域住民と真摯に向き合ってきたこと、大学院時代で学んだこと、教員として、研究者としての現在の先生の考え方を私達に示していただきました。その中で、常に疑問を持ち、追及していく姿勢、人と人とのつながり、関係性を大切にしていくことの重要性を説かれました。先生のこれまで歩みを拝聴し、先生が様々な課題から逃げることなく、真摯に向き合い、努力を惜しまない姿に感動を覚えました。このような偉大な先輩がおられることは本当に心強いことです。医療職として歩み始めたばかりの卒業生も日々学習を積み重ねることの大切さを理解したのではないのでしょうか。卒業生の活躍が大学の誇りです。どうか、あせることなく、日々の対象者から学ぶ姿勢を忘れず、がんばってほしいと願っています。

「分科会テーマ」

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	大学院進学までの歩み 3年目になって	南棟 117	橋本君代さん（愛媛大学医学部附属病院） 松本美咲さん（愛媛県立中央病院）
助産師	3年目を迎えて	南棟 215	井上沙弥香さん（愛媛県立中央病院） 魚師香織（愛媛県立中央病院） 谷中真実さん（大阪済生会吹田病院）
保健師	保健師の初めの一步のふりかえり 県と町では違うかな	北棟 355	沖野健治さん（松野町役場） 小西真寿美さん（愛媛県西条保健所）
臨床検査技師	県外出身者の愛媛県職員健診センターの業務について	南棟 217	星衛雄樹さん（愛媛県立中央病院） 中田夏子さん（JA 愛媛厚生連健診センター）

(5) 参加者アンケートの結果（回収率 91.6% 卒業生 79 名、在學生 94 名、教員 2 名）

情報源・・・卒業生①案内文書②口コミ③チラシ

在學生①口コミ②学内掲示・チラシ③教員呼びかけの順で多く回答があった。

講演・・・「とても良かった」47.2%、「良かった」42.6%、およそ 9 割の参加者の心に響く内容であった。

分科会・・・「先輩・卒業生のお話が聞けてとても楽しかった」、「業務の具体的なイメージができて良かった」、「卒業後の進路選択の参考になった」、「リフレッシュできた」、「後輩と話せて楽しかった」、「後輩からの質問してもらって、自身の行動を振り返る機会になった」等よい評価であった。

内容意見：「先輩の貴重な話を聞くことができた」（卒業生）

「先輩の生の声が聞けたこと、とても刺激的でよかった」（在學生）

日程・その他意見：

開催時期・日程は良かった。（98%）

分科会の時間をもっと取ってほしい。（在學生・卒業生）

時間が足りない。（在學生・卒業生）

②分科会報告

「看護師分科会」

参加者は、卒業生 38 名、在校生 26 名、教員 5 名の計 69 名であった。

分科会開始までの待ち時間に、愛媛県立医療技術大学開学 10 周年記念の DVD を上映し、大学の近況を紹介した。

ゲストスピーカーは、愛媛大学医学部付属病院の橋本君代さんと愛媛県立中央病院の松本美咲さんの 2 名であった。

橋本さんは、「大学院進学決意までのあゆみ」について、愛媛県立医療技術短期大学を卒業した後、副看護師長、がん放射線療法認定看護師として経験を積んだ後、専門的な視点からだけでなく総合的かつ論理的に考えることの必要性を感じて大学院進学を決意したこと、その際、看護学専攻と医療技術科学専攻の学生が共に学べるカリキュラムが準備されていたことが、本学を進学先を選ぶ決め手になったことを語った。後輩には、多職種と関わりながら沢山の経験を積むこと、その為にはコミュニケーション能力を高める必要があるとアドバイスした。



松本さんは、「3年目になって」と題し、看護師としての成長を振り返った。就職時から書き始めた自己学習ノートが 15 冊目になったことや大好きな祖母を看護師として、また孫として看取ったことに触れ、多くの人に支えられながら努力した結果、看護が楽しめるようになってきたと語った。On と Off を上手に切り替えて日々を楽しく過ごしている様子も紹介し、後輩と一緒に働ける日を楽しみにしているとメッセージを送った。



茶話会では、互いの近況報告や卒業生と在校生の情報交換が活発に行われ、閉会時間を過ぎても話が尽きない様子であった。



「助産師分科会」

参加人数：56人

【内訳】学部生15人(1年2人・2年2人・3年6人・4年5人) 専攻科6人
卒業生24人(ゲストスピーカー3人) 子ども4人 教員7人

分科会：木蓮会助産師部会会長挨拶；野上聖子さん

講演「3年目を迎えて」

大阪済生会吹田病院勤務	谷中真実さん
愛媛県立中央病院勤務	井上沙弥香さん
	魚師香織さん

フリートーク

お礼の挨拶：北原先生



野上さん

谷中さん

井上さん&魚師さん

【講演とフリートーク】

講演テーマは「3年目を迎えて」でしたが、専攻科の後輩や助産師を目指そうと考えている学部生も多く参加することを事前に知らせておいたため、専攻科での1年間についても話してくれました。仕事に関しては、混合病棟で産科以外からスタートしたことが分娩介助を始めた今役に立っていると話してくれた谷中さん、3年目として医師と対等な責任を求められるがまだ先輩に頼ってしまうことを悩んでいると話してくれた井上さん、他の人とは違う経歴、仕事と子育てとの両立が難しく悩んでいるが、子育てが仕事に、仕事が生産に役に立っていると話してくれた魚師さん。三人三様、今の状況を素直に話してくださったので、学生だけでなく2年目、1年目の卒業生にも身近なテーマでわかりやすかったと思います。さらに3人が今回話す機会を得たことで、どのような助産師になりたかったかなど初心を思い出してまた頑張ろうと思えた、と話してくれたことは主催者として嬉しかったです。

フリートークは卒業生が頼りになる先輩として学生のいろいろな質問や悩みに親身になって答えてくれ、どのテーブルもとても盛り上がっていました。十分な時間がとれませんでした。後片付けを手伝ってくれた学部生に感想を聞くと

「モチベーションが上がった。」と言ってくれたので短時間でも充実した時間になったのだと安心しました。

ホームカミングデーは同期の同窓会の場、勤務地域の交流の場、学生にとって先輩の話が直接聞ける場、などたくさんの意義があると感じました。



「保健師分科会」

『保健師の 初めの一步の ふりかえり 県と町では 違うかな』

ゲストスピーカー：沖野健治さん（2013年卒）松野町役場

小西真寿美さん（2013年卒）愛媛県西条保健所

〈参加者数〉在校生 25名、卒業生 11名、教員 2名

保健師分科会では、行政保健師として採用3年目を迎えた卒業生2名に活動の歩みを語っていただきました。



「3年をかけて担当地区の全戸訪問を行った。複雑化する仕事に悪戦苦闘しながらも、分かり合える仲間の存在に支えられ、保健師活動にやりがいを感じています。」
沖野健治さん（松野町役場勤務）

「個別事例や集団へのかかわりで、当事者が前向きに変容していく姿に感動。勉強は大変だけど、保健師になって得られるものは大きいです。」

小西真寿美さん

（愛媛県西条保健所勤務）



グループに分かれた交流会では、担当業務や就職活動についての話題で盛り上がりました。

「臨床検査技師分科会」

ゲストスピーカー：星衛雄樹さん（2008年卒）愛媛県立中央病院勤務

『県外出身者の愛媛県職員』

ゲストスピーカー：中田夏子さん（2012年卒）JA愛媛厚生連健診センター勤務

『健診センターの業務について』

〈参加者数〉 卒業生 14名、在校生 26名、教員 4名（旧教員 1名） 計 45名



星衛雄樹さん（愛媛県立中央病院）



中田夏子さん（JA愛媛厚生連健診センター）



講演風景（熱心に聞き入る卒業生と在校生達）



一気に盛り上がりを見せた茶話会。先輩たちとの会話が弾む。

星衛雄樹さんの講演では、就職に当たって県外出身者が愛媛に残るという選択をしたときのメリットとデメリットについて体験を通して語っていただいた。一番のメリットとして、近くに多くの同級生がいてお互い切磋琢磨できること、臨地実習で施設を超えた横の繋がりができていたことを挙げた。また、1年間の臨時職員の経験から、臨時職員は時間をかけて自分をアピールできるチャンスと捉えることができるとアドバイスした。中田さんは、健診センターの仕事内容について、「予防は治療に勝る」を施設のモットーにした巡回健診と施設健診における業務の実際を紹介いただいた。病院とは異なる業務上の苦勞と楽しみ、そして健常な受診者に潜む異常を見つけることの難しさと喜びについて語った。

5) 評価と課題

(1) ねらい・成果

卒業生にとって、旧交をあたため、在校生と交流するととても良い機会であると同時に、在校生や教員との交流によりリフレッシュし、新たな気持ちで仕事に向き合えるきっかけになっていると評価している。在校生にとっては、卒業後の進路選択の参考となる等評価であった。

(2) 広報戦略

次年度も卒後1・2年生を対象に、職場上司と本人に案内文書を送付する。

(3) 運営・開催日程

次年度も開学記念日に近い6月20日前後の土曜日を予定する。HCD当日の卒業生の図書館の利用については、次年度検討する。特別講演は、学生・卒業生に話をしてほしい人を呼ぶ、講師が卒業生であっても良い。分科会の時間をより多く確保するために、開催時間を早めることを検討する。次年度も木蓮会と共催、木蓮会総会との同時開催とする。

2. 看護実践研究セミナー

1) 概要

本企画は、愛媛県内において看護の臨床や教育現場で看護に関わっている看護職などを対象に、講師を招いた受講者参加型セミナーを開催することにより、臨床における看護職の看護実践や研究力の向上に寄与しようとするものである。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学（地域交流センターおよび看護学科）

3) 組織（プロジェクトメンバー）

地域交流センター員、看護学科教員

4) 事業内容

セミナー 「Catch the Sign フィジカルアセスメント ～見のがしてはならない身体のメッセージを読み取る～」

(1) 日時：平成27年10月3日（土）10:00～16:00

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室

(3) 参加者数：一般（看護師 87 名、教員 4 名、所属未記入 2 名）、学内（教員 12 名、学生・院生 23 名）、合計 128 名

(4) 実施者と実施内容：

実施者 杏林大学医学部附属病院 看護部長 道又元裕氏

実施内容 公開講座形式（生命にかかわる呼吸器疾患と循環器疾患のフィジカルアセスメントについて）



(5) 参加者の反応 (アンケート結果)

セミナーの感想：

- ・大変高名な先生を愛媛にまねいていただいたことに感謝しています。先生の著書は多数もっていますが、直接講義をうけることで深みが増し、今後の活動に役立つられると思います。ありがとうございました。
- ・医療用語の話から、臨床推論まで幅広い話を聞くことができました。事例をまじえた話が多く、事例の流れに沿ってフィジカルアセスメントを行う上での知識を得ることができました。臨床で予測しながら患者と関わっていくためには根拠を持って適切にアセスメントすることが必要だと思うので、日々努力していきたい。
- ・人工呼吸器の勉強を道又元裕先生の本で勉強しました。県外でのセミナーへ参加をする機会がなく、今回、セミナーを愛媛で受けることができ本当にうれしいです。
- ・四国でセミナーがあることは少なく、四国外で高額なものに参加していたので、非常にありがたかったです。
- ・少し内容が難しいところもあったが、最後の看護師のプロであるべき姿を聞いて改めて看護師と言うものはなにかと考えると同時に将来自分自身もそんなプロの看護師になりたいと思った。
- ・資料がカラーでなく、見づらかった。参加費に見合った資料ではなかった。

今後、セミナーで実施して欲しいこと：

- ・山勢先生をまねいていただきたいと思います。
- ・道又先生のセミナーをシリーズ化して欲しい。
- ・今回の様に最前線で活躍されている先生を呼んで欲しい。
- ・家族看護、終末期の意思決定支援について。
- ・人工呼吸器管理中の看護ケア、血液ガス分析の見方、アセスメントについて。
- ・災害をテーマにしたセミナーがよいと思います。

5) 課題と評価

周知の方法について

セミナーの周知は開催日の約1ヶ月前から大学HPおよび学生の実習先、就職先、看護大学、専門学校へ文書で行った。さらに、実習連絡会議でもセミナーのチラシを配布し、口頭でも周知を行った。その結果、外部の参加者は90名を超える結果となった。

周知の時期は、勤務希望の時期を考えると、もう少し早くする方がよいかもしいない。周知の方法としては、文書で送付した後に実習連絡会議で説明を加えることにより、セミナーへの関心を持っていただく機会となり、よかったと考える。

セミナーについて

今回のセミナーは、全国的にも著名な講師を招き、看護実践の場ですぐに活用できる内容ということもあり、多くの看護職の参加を得ることができた。受講者の中にはこれまでに著書で勉強された方やセミナーに参加したことがある方もおられ、多くの方から高評価を得ることができた。また、シリーズ化を希望される方が多かった。その背景として、四国では全国的に有名な先生のセミナーの開催が少なく、参加費用も高額であることが考えられる。その他、資料の見づらさに関するご意見をいただいた。

今後、セミナーのシリーズ化や最前線で活躍されている講師をまねくなど、より多くの看護職のニーズを踏まえて内容を検討する。また、参加費と資料については、資料代として別途徴収するかどうかも含め、検討していく。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

平成 27 年度第 1 回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期の子ども達の自尊感情を高め、思春期の心と体の健康づくりの視点に立ち地域と学校が連携・協働・継続して性教育を推進するための研修会やモデル事業の取り組みについて検討する。他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりとする。

(2) 対象者

愛媛県内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭・PTA 代表者等
思春期保健対策に携わる医療関係者、思春期保健に関わる関係者

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

難病・母子保健係、感染症対策係、精神保健係

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学：豊田ゆかり 中越利佳

愛媛県中予保健所 感染症対策係：森眞弓 麓由香里

難病・母子保健係：正岡田江子

精神保健係：重松和子、宇都宮愛理

4) 事業内容

(1) 日時 平成 27 年 8 月 27 日 13:00～16:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 116・117 教室

(3) 参加者数

● 特別講演 69 名

※参加者内訳

市町保健師：14 名、高等学校養護教諭：2 名、中学校養護教諭：11 名

小学校養護教諭：6 名、八幡浜保健所：1 名、宇和島保健所：1 名

内子町保健福祉課：2 名、助産師：3 名

本学学生（看護学科・助産学専攻科）：12 名、一般：3 名

中予保健所：5 名 愛媛県立医療技術大学教員：8 名

● ワークショップ 39 名

※参加者内訳

市町保健師：10 名、高等学校養護教諭：2 名、中学校養護教諭：10 名

小学校養護教諭：5 名、八幡浜保健所：1 名、宇和島保健所：1 名

助産師：2 名、一般：1 名、中予保健所：5 名

(4) 実施者と実施内容

① 特別講演

「子どもたちの心に響くいのちの教育」

講師 いのち咲かせたい 助産師 山本 文子 氏

(元 NPO 法人いのちの応援舎代表)

講師の山本氏は、年間 100 件以上の思春期性教育の講演活動を精力的にこなされている助産師である。思春期の子ども達の心理と子ども達を取り巻く社会の現状、学校教育と家庭生活の現状、学校の性教育の現状についてわかりやすく事例をあげながら御講演をいただいた。

性教育は、心が生きる教育（いのちの教育）であり、性器教育ではないこと。しかし、セックス（性）を抜きにして「生」はあり得ないこと。いのちの教育は、子ども達が生きるために必要不可欠であることを強い情熱をもって語られた。参加者は、講師のパワーあふれる講演を聞きながら、思春期の子ども達の心と体を守るために自らができることを真剣に考え、これからの教育活動に勇気と自信をもって取り組もうと決意を新たにされた講演会となった。

② ワークショップ

ア テーマ

「男子生徒への効果的な性教育を考えよう」

イ 方法

山本講師から、男子の性の特徴と性教育の実際について話題提供が行われた。

その後、6 グループに分かれ、男子の性教育、日頃取り組んでいる性教育の課題について活発なグループ討議が行われた。はぴょうでは、日頃の活動の悩みや疑問が出され、それらに対して、山本講師から丁寧なアドバイスをいただくことができた。また、普段は関わることのない異職種が思春期をテーマに話愛をしたことで、それぞれの情報交換やネットワーク作りの足掛かりとなり、今後の活動の広がり役立つものとなった。

ウ まとめ

いのち咲かせたい 助産師 山本 文子 氏

愛媛県立医療技術大学地域交流センター 豊田ゆかり

③ 参加者の反応（アンケートの自由記載より）

- ・学校現場ではなかなかオープンな性教育はできないのが現状である。しかし、命はとても大切であり、どこから命はやってくるのかということは伝えていくべきだと思う。山本先生のパワーのあるお話を聞くことができ、本当に良かったです。（養護教諭）
- ・これから親になっていく子ども達、今子育て中の保護者に是非聞いていただきたいお話でした。心に残った言葉はたくさんあったのですが、抱きしめてあげ

ること、ぬくもりを求めているというお話が心に残りました。(養護教諭)

- ・命の大切さを改めて深く考える貴重な時間となりました。自分が自らのやり方で何ができるのかを真剣に考えなくてはと実感しました。(保健師)
- ・とてもわかりやすいお話でした。今、色々なお母さん、お父さんがいて、どう関わっていいのか悩むことも多いのですが、「抱きしめてあげていますか？」を声掛けしていこうと思いました。(保健師)
- ・命の素晴らしさ、生と性について伝える性教育、感動しました。年代を問わず、大切なことは同じ。自分自身がいのち、愛を大切にして、今を生きていきます。(学生)
- ・いろいろな立場の方の意見が聞けてとても勉強になった。異職種や異業種の方々と同じテーマで話すことは、色々な視点から考えられるだけでなく、つながりもたくさんできるので、このような機会はとてもありがたい。(ワークショップ・養護教諭)

④ 研修会の写真

ア 特別講演 (山本 文子氏)



イ ワークショップ



5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から今回で第 4 回目を終了した。今回は、全国的に有名な性教育の講師をお招きし、研修の対象者を愛媛県全体に呼びかけ、69 名の参加者を得ることができた。また、第 2 部のワークショップも 39 名の参加者があり、活発な話し合いが行われた。研修会終了後のアンケート結果から（回収率 81%）特別講演、ワークショップともに全員が良かった、とても良かったと答えており、満足度が高いことが示された。

アンケートの自由記載より、性教育の大切さや必要性は理解しているが、自分がどう対象者に向き合い、何を伝えられるかについて悩んでいたが、何が大切なことなのかを自分自身の中で明確化でき、日常の業務に活かしていきたいという感想が多く認められた。本セミナーの役割は、思春期保健に関わる専門職へのスキルをサポートすることであると改めて認識した。

今回は広く松山市、新居浜市、今治市、内子町、八幡浜市、宇和島市等からの参加者があり、また、職種も様々であったことから、貴重な情報交換やネットワークづくりの場になったことも特筆すべき点である。

開催時期に関しては、8月の夏季休暇中であることから参加しやすかったという意見がある一方で、新学期開始直前であり、あと1週間早ければ、もっと参加しやすかったという意見もあり、次年度の開催時期の参考にしていきたい。

思春期の子ども達を取り巻く環境は日々変化している。子ども達の心身の健康を支援する専門職が定期的に集まり、学習を積み重ねることは必要である。今後もセミナー開催の定着化とセミナー受講後の活動のアウトカムを検証していく取り組みが今後の課題である。

平成 27 年度第 2 回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子ども達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点にそって、他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭、保健主事、思春期保健に関わる保健師、助産師、看護師、保護者等

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所 健康増進課、難病・母子保健係、感染症対策係、
共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学：豊田ゆかり 田中美延里（講師） 中越利佳
愛媛県中予保健所健康増進課：荒木周一郎課長、檜垣裕子主幹
感染症対策係： 森真弓 麓由香里
難病・母子保健係：徳弘美智江 正岡田江子

4) 事業内容

(1) 日時 平成 28 年 1 月 9 日（土） 13:30～16:30

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 2 階 257 教室

(3) 参加者数 16 名

（参加者内訳）養護教諭：4、保健師：3、講師及びスタッフ：6

(4) 実施者と実施内容

① 話題提供：中予保健所による思春期保健対策の取り組みと課題

○性感染症対策の視点から

中予保健所健康増進課 感染症対策係 麓 由香里

○中学生に対する思春期教室をとおして

中予保健所健康増進課 難病・母子保健係 正岡 田江子

② ワークショップ

ア テーマ

「組織的かつ継続的に思春期教室を実施できるシステムづくりのために必要なものは何かを考えよう」

イ 方法

学校、地域における思春期教室、性教育の取り組みについて参加者全員に話してもらい、意見交換を行う。

ウ まとめ

「組織的かつ継続的に思春期教育を実施できるしくみづくりに必要なものは何かを考えよう」 講師 愛媛県立医療技術大学 准教授 田中美延里

意見交換で話された内容から、組織的・継続的に事業ができる仕組み作りについて講義がなされた。ワークショップを通して、思春期教育の「これまで」から「これから」が見え、積み重ねの歴史をとおしてその価値に気付き、問題意識の共有やネットワークづくりをとおして、本研修会の強みを再発見できたことを明確化された。今後の思春期教室を組織的・継続的に実施できるしくみづくりとして、①企画前・準備段階でのネットワークづくり②「研修前」を重視する③「宛先」を明確にして、その成果を発信することの必要性を示唆された。

③ 参加者の反応（アンケートの自由記載より）

- ・教室を立ち上げたとき、継続へのさまざまな思いや努力を聞いたり、ネットワークづくりの取り組みなど学べたため。意欲アップにもつながった。
- ・思春期教室の実際について、情報交換ができ、ワークショップで様々な意見を話し合い、聴き合うことができてよかった。
- ・学校側の意見も多く聞けたので、保健師が考えるのとは違う視点がみえて参考になりました。来年度の学校との調整のヒントも頂けたので、今後に活かしたいと思います。
- ・思春期教室等についてまだまだ分からない中での研修参加でしたが大変勉強になりました。
- ・今日の研修会に参加して、まずは土台づくり、実態把握を頑張りたいと方向性について考えることができました。

④ 研修会の写真



中予保健所 健康増進課 荒木課長 挨拶



中予保健所 麓保健師 話題提供



中予保健所 正岡保健師
話題提供



活発なワークショップ



田中准教授によるまとめ

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から今回で第 5 回目を終了した。今セミナーでは、参加者それぞれが思春期の性教育にかける強い思いと事業を継続させようとする使命感が思春期の性教育支援につながる原動力になっていることが確認された。今後も研修会をとおして、ひとりひとりの思いを形にし、成果を発信できる事業に発展させていきたい。次年度より、思春期保健スキルアップ研修会は年1回の開催とするが、平成27年度中学生の性に関するアンケート（中予保健所実施）の結果をふまえて、平成24年に作成した性教育教材CDの改編に着手していく予定となった。

6) 資料

「組織的かつ継続的に思春期教育を実施できるしくみづくりに必要なものは何かを考えよう」 講師 愛媛県立医療技術大学 准教授 田中美延里

平成27年度第2回思春期保健スキルアップ研修会

組織的かつ継続的に思春期教育を実施できるしくみづくりに必要なものは何か考えよう

今回のワークショップの意味

- 経験を活かすための組織的学習の場
- 協働 リフレクション
- ラーニングヒストリー

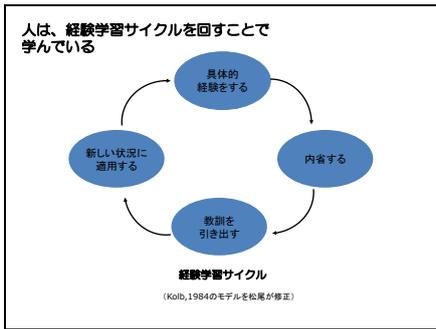
行為についてのリフレクション
(reflection-on-action)

- 行為を後から思い起こし、分析し解釈することによって、ある特定の状況で用いた知識を明らかにするためになされる懐古的な吟味のこと

【実践知の明確化】へ

専門職にとつてのリフレクション

1. 理論と実践をつなぐ
類似した状況で活用できる知識を想起できるようになる。
2. 現象や物事を多面的に考える力をつける
状況には様々な見方や意味づけができる。いま、この経験をどのように捉えればよいのかを、自分自身で検討できることがより良い実践を導く。
3. 実践に真摯に向き合う態度の実践
日々の経験から何らかの学びをしていると実感することで、実践への自信、自己効力感にもつながりやすい。
実践から学ぶという意識がもてると、どんな状況にも真摯に向き合う姿勢にも影響を与える。



- ### ワークショップを通して(1)
- 「これまで」から「これから」が見える
 - 価値に気づく
積み重ねの歴史
 - 強みを発見する
問題意識の共有、ネットワークづくり等

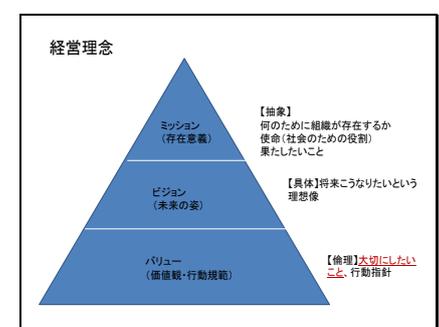
- ### 保健活動の質の評価指標
- 保健活動の質の評価指標開発研究班
総括 平野かよ子
- 平成22～24年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業

- ### 保健活動の質の評価指標 開発の背景
- 地方自治体による事業評価の指標設定
「健康日本21」「健やか親子21」
10年間で達成する**目標**の設定と**評価指標**の設定
 - 地域保健事業報告等での事業実績
事業の実施回数や参加者数、受診者数等のアウトプット(実績)が示される現状

- ### 保健活動の質の評価指標 開発の背景
- 保健活動の質の評価の必要性
活動・事業の総合的評価し、その進め方が適切であったかを評価し、保健師の有用性、存在意義を示したい
住民の、地域のここが変わる！
「保健師が活動・事業を担うと、ここがこう変わる」
できれば**簡潔明瞭**に示したい

- ### 保健活動の質の評価指標： ドナペディアン・モデルの活用
- 医療の質評価に広く用いられているモデル
- 「構造」: 人的物的財政的な資源など医療提供環境
「プロセス」: 医療提供に求められる水準、規範
「結果」: 提供された医療によって患者、医療提供側にもたらされた変化
- 「構造」→「プロセス」→「結果」の機能的な関係が存在する。

- ### 保健活動の質の評価指標
- 保健活動の評価枠組み →別紙
結果を短期・中期・長期に分けている。
 - 領域ごとの評価指標の提示
(地域保健分野6領域と産業保健分野1領域)
→母子保健のみ抜粋
 - 評価指標の実効性**検証中**(平成25～27年度)



企業での研修企画の例

- ①ニーズの探索
- ②人材マネジメント施策の検討
- ③学習者の分析
- ④「経営陣」と「現場トップ」のステークホルダー化

ステークホルダー：利害関係者

企業での研修企画の例

「経営陣」と「現場トップ」の ステークホルダー化(身内化)

- 「経営陣」と「現場トップ」に同じ船に乗ってもらう
- 客観的に冷静に必要性を説得する
- 「情」でなく、「ロジック」で動かす
- 説得の際には、「数字」、「経験談」、「ロコミ」、「アウトプット」、「ビジュアル」を適宜盛り込むことも考える

組織的・継続的に実施できるしくみづくり

- 企画前・準備段階でのネットワークづくり
- 「研修前」を重視する
- 成果を発信する
“宛先”を明確にして

文献

- A.ドナベディアン著, 東尚弘 訳: 医療の質の定義と評価方法, 健康医療評価研究機構, 2007.
- 池西悦子, 田村由美: 第4章 看護学教育の基盤, リフレクション, 看護教育学—看護を学ぶ自分と向き合う—, 南江堂, 2009.
- 松尾陸: 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門, ダイアモンド社, 2011.
- 中原淳: 研修開発入門～会社で「教える」、競争優位を「つくる」～, ダイアモンド社, 2014.

4. 高校生の生命科学体験プログラムえひめ高校生生体機能研究プログラムーホメオスタシスの探求ー

1) 概要

「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」は、平成 22 年度より JST の「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」(SPP) に採択され、県教委員会主催で開催されてきた。この事業は、2015 年度の開催をもって JST の SPP 募集停止に伴い終了することとなった。「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」(生物コース)は、初年度より事業終了の昨年度まで本学で開催され、講師は本学教員が務めてきた。生きた動物を用いた生体機能実験は、高校生(特に、生命科学、医療系の分野を志す生徒)にとって、興味関心が高いものであるにもかかわらず、現在、高等学校の教育現場で実施することは、ほぼ不可能な状況となっている。このような背景から、毎年、生物コースの応募者数は定員の数倍という高いニーズがあった。今回、高校生の高いニーズと高等学校理科教員の強い要望に応えるために、本学主催で「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」(生物コース)に代わる事業を実施した。

2) 実施主体

主催：愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

講師：野島一雄(基礎検査学講座)、岡村法宜(基礎検査学講座・動物実験委員会)

学生ボランティア：組地美有、藤田優城、武智大夢、前川清楓、向井実来、山田健人

4) 事業内容

(1) 日時：平成 27 年 8 月 10 日(月)～11 日(火) 10 時～16 時

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学(356 教室・460 医用工学実習室)

(3) 参加者数：愛媛県内の高等学校生徒 17 名、高等学校教員 6 名

(4) 実施内容：

講義「動物実験を行うために必要な教育訓練」

「生体のホメオスタシスとは」

実習 1 「ラットの解剖」

実習 2 「運動と血糖の関係」

実習 3 「体温調節における循環の役割」

インターネットを利用した模擬発表会(11 月～12 月)

(5) 参加者の反応

① アンケート結果(回答数 17 名、参加高等学校生徒全員)

ア) 講座の難易度について選択して下さい。

難しかった	3名
やや難しかった	6名
ふつう	5名
やや簡単だった	3名
簡単だった	0名

イ) このような講座が開催される場合、また受講したいと思いますか。

ぜひ受講したい	6名
時間が合えば受講したい	11名
特に受講したとは思わない	0名
受講したくない	0名

ウ) あなたが勉強する上で、本講座を受講した経験は、役に立ったでしょうか。

非常に役だった	17名
やや役だった	0名
ふつう	0名
あまり役にたたなかった	0名
役に立たなかった	0名

エ) 本講座を受講した感想を記入して下さい (自由記載)。

- ・ ラットの解剖や、マウスを使った実験を行うことができ、普段の学校生活では経験でき無いような事が出来て本当によかったと思います。また、実際に解剖をすることで、臓器の配置や形などを再確認することや、自分たちで考察をしながら実験を行うことで、新しい発見や知識を蓄えることが出来たと思うので、その点でも良い経験だったと思います。
- ・ 初めて解剖をしてみて、最初は少し抵抗感があったが臓器の構造や機能を学ぶことができ勉強になりました。発表の資料を作成する際には、誰もがわかりやすいように、そして深く考察をしていきたいと思います。
- ・ 今まで経験したことなかったラットの解剖をすることが出来てとても勉強になりました。いろいろな臓器を見る事が出来て構造や役割を学ぶことができよかったです。ラットの体温の変化やマウスの血糖値の変化を知ることができました。麻酔のかかり具合でアドレナリンの効果が異なることを初めて知ることができました。たくさん勉強できたのでよかったです。
- ・ 自分は生物は好きだけれど、正直、解剖する前は自分が解剖できるなんて考えもしなかった。解剖することがとてもかわいそうで仕方がないと思っていた。

しかし、実際は、初めて、動物の臓器を見て、とても綺麗で、すごい感銘を受けた。そして、自分の価値観というか、考え方が少し変わったように思う。なかなかこのような機会もないので、とてもとても良い経験となった。

- ・ 私は、解剖に怖さや抵抗はなかったが、内臓の匂いだけ少し、不快だった。だが、解剖に使わせていただいた動物にしっかりと感謝したい。病理学に興味があり、人間の役に立つ、病を治す薬や治療発見のためにもやはりうネズミやラットなどの尊い犠牲は必要であり、その覚悟の上で、しっかりと人間とその動物の命を考えて研究できる人になりたい。将来の夢は、まだ悩んで決めかねているが、今回の実験はとても良い経験になった。
- ・ 普段の高校生活では体験できない解剖などができ、自分の進路に大変役立つと思うので受講して本当によかったです。
- ・ 今回は、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。先生方、先輩方の分かりやすく丁寧なご教授のもと、安全に実験を行うことができ、結果を理解した上で、考察もしっかりと確立することができました。失敗もあり、ご迷惑をおかけしたこともあったかと思えます。本当にお世話になりました。今回学んだことを、これからの学習や進路決定に生かしていきたいと思えます。

② 開講風景



実験風景



動物慰霊碑前での黙祷



講座修了後の記念撮影

5) 評価と課題

(1) 受け入れ定員について

「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」生物コースを担当してきた経験から、1つの実験を深く掘り下げていくために、1班3名、4班計12名に募集定員を限定した。その結果、応募開始3日で募集定員に達し、TAの学生ボランティアを2名から6名に増員することで、講座の質を落とさないように、6班、計18名まで受け入れ予定を増員した。しかし、最終的に50名を超える応募者があり、多くの高等学校の生徒を受け入れることができなかった。次年度も本講座を開講する場合、講座の質を維持するため現在の定員を維持するか、多くの参加希望者を受け入れるように方針を転換

するか、種々の状況を総合的に判断して決定する必要がある。

(2) アンケート結果について

アンケートで講座の難易度について、「やや簡単だった」と回答している生徒が3名いたが、講座の難易度をあげすぎると、身近な生体機能を深く掘り下げて研究することが難しくなる。参加生徒17名全員が「勉強する上で、本講座を受講した経験が役に立った」と回答していることから、講座の難易度をあげる必要はないと考えられる。

(3) インターネット利用の模擬発表会について

高等学校のスケジュールの都合で参加者全員が集まって発表会を開催することが困難であったため、インターネットによる発表ファイルの閲覧と意見の書込による。模擬発表会という形式で研究発表会の場を設けたが、議論が十分行えたとは言えず、前年度までに「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」で実施していたような、発表会を実際に開催した方が、高等学校生徒の学習意欲を刺激できるように思われた。

5. ブック&メディカルトーク

1) 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に、県立図書館職員よりいのちに関する図書の紹介と本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に生と死、命、医療などを考える機会とする。

2) 実施主体・連携協力機関

本学地域交流センターと愛媛県立図書館の共催

3) プロジェクトメンバー

越智百枝教授、中越利佳講師

4) 事業内容

(1) 日時 平成 27 年 11 月 11 日 (水) 15:40～17:00

(2) 場所 愛媛県立西条高等学校 会議室

(3) 参加者数 1 年生 24 名、2 年生 19 名、3 年生 17 名、教員 4 名 合計 64 名

(4) 実施内容

- ブックトーク (愛媛県立図書館 読書振興グループ 東智子)

医療系・看護系の仕事をテーマに、『お役に立ちたい!』と題して 7 冊の本を紹介した。将来、医療系や看護系の進路を考えるときの参考になるような本を紹介してほしいということだった。当初は図書室で開催する予定だったが、希望者増えたため広めの教室で実施した。女子が多かったが、男子も 5 分の 1 いた。主に看護系の職業を希望していた。

- メディカルトーク (愛媛県立医療技術大学 越智百枝教授)

メディカルトークは、看護師・保健師として働いた経験を持つ地域・精神看護学の越智先生から『「ケア」とは』と題し、セルフケア理論を通して、援助者の心構えをお話いただいた。熱心な援助者ほど看護しすぎる傾向があるが、それは対象者にとっては良いことではなく、援助者も心のゆとりを持って看護にあたることが大切だと話された。生徒たちは頷きながら熱心に聞いていた。終了後は、「心にゆとりを持つために先生がしていることは？」など生徒から質問も出た。

5) 評価と課題

医療の専門家との連携によるブックトークは、愛媛県立図書館の事業としても有意義なものだと評価されている。県立図書館のブックトークと本学教員によるメディカルトークは、将来の進路を決める高校生にとって有意義で教育効果が高いものとなっている。次年度も県立図書館との共催で開催される予定である。



6. おもしろ理科教室（学生祭）

1) 概要

地域貢献の一環として地元の子どもを対象に、実験を通して理科のおもしろさや自然科学への興味を喚起することを目的として、親子体験型の理科教室を開催した。

地域貢献の一環として地元の子どもを対象に、実験を通して理科のおもしろさや自然科学への興味を喚起する理科教室を、学生祭と同時に開催した。2名の教員を中心に学生ボランティアの協力を得て、ジャボン玉および顕微鏡の作製に関する体験学習を実施した。親子を中心に学生など多数が参加し盛況であった。

2) 実施主体

主催：本学地域交流センター

後援：学生ボランティア6名（一部3名、二部3名）、医技大祭実行委員会

3) プロジェクトメンバー

第一部：加藤徳雄（看護科基礎教育講座）

学生ボランティア3名（川波芽衣、芝有香、松田理沙）

第二部：佐川輝高（臨床検査学科基礎検査学講座）

学生ボランティア3名（植田七海、里見瑛梨奈、西原莉子）

担当者：山岡源治、岸田直樹

4) 事業内容

(1) 日時：第一部 平成27年10月24日（土）13時～15時

第二部 平成27年10月25日（日）13時～15時

(2) 場所：本学 北棟359実験室

(3) 参加者数：幼児・児童と保護者等 第一部 62名、第二部 41名

(4) 実施内容

① 第一部：「シャボン玉液をつくろう」

子どもたちが自分で、メスピペットや駒込ピペットを使って、洗剤、グリセリン、洗濯のりおよびガムシロップなどを量り取り、蒸留水に混合して、「こわれにくいシャボン玉液」や「ジャンボシャボン玉液」を作製した。ストローの加工やジャンボシャボン玉用のアルミ線を使った輪っか作りにも挑戦した。そして廊下で作ったシャボン玉液を使ってシャボン玉を飛ばした。実験により作製した作品はお土産として持ち帰ってもらった。

② 第二部：「顕微鏡をつくろう」

子どもと親と一緒に、短冊型に切った厚紙に黒のビニールテープを貼り、千枚通しで穴をあけ、そこにガラスビーズ押し込み固定をして、レーウエンフックの顕微鏡を作製した。また、葉の気孔や皮膚を観察するために、スンプ法を用いて表面形状を写しとってプレパラートを作製した。そして、レーウエンフックの顕微鏡とプレパラートを重ねて覗きピントを調節しながら100倍程度の拡大像を観察した。単眼顕微鏡による観察も合わせて行い、解像度の違いを体験した。

(5) 実施風景



シャボン玉液作製風景



顕微鏡作りの風景

5) 評価と課題

- ① 第一部：参加者たちは、子供だけでなく、大人も童心に帰って実験を楽しんでいた。ジャンボシャボン玉を作るのは思いの外難しく、何回も挑戦してやっと上手にできたときには、喜色満面、小さな歓声があちらこちらで上がって、和やかな雰囲気であった。自作のシャボン玉液やジャンボシャボン玉液などをお土産にもらって、楽しいひと時の思い出にもなったのではないだろうか。ただ、シャボン玉液で廊下が濡れて滑りやすくなってしまったため、中庭など外でシャボン玉を飛ばすなどの工夫が必要だと思われた。

② 第二部：レンズになるガラスビーズを厚紙に固定するために、丁度よい大きさの穴を開けて押し込む作業やピント合わせのコツを掴むことが少し難しかったようだ。しかし、参加者たちはごく簡単な装置で身近な材料を 100～200 倍に拡大して観察できることが判り、貴重な体験に満足していたようだ。課題は、細かでやや時間がかかる作業であったため、先生やボランティア学生が説明や指導に追われ、後からきた参加者への対応がやや遅れることがあった。待ち時間を考慮する必要があるが、今回のような実験の場合には、いくつか区切って、説明と作業を一斉に始める形式も考慮する必要があるのではないかと思われた。

7. 地域包括ケア人材育成等支援事業開催概要

1) 地域包括ケア人材育成等支援事業概要

県内でも少子化が進む南予地域では、介護人材の確保が深刻な課題となっている。そこで本学と西予市と連携して行う地域資源の乏しい農村型の地域包括支援システム構築のための人材育成プログラムの開発及び地域包括ケアシステム構築支援を27年度から29年度の3か年計画で行う。

2) 実施主体

愛媛県・愛媛県立医療技術大学・西予市

3) プロジェクトメンバー

大学、西予市関係部局、関係団体等の代表者で組織する。そのための組織として事業推進会議を行い、その部会として、人材育成事業部会と地域包括ケアシステム構築支援部会をおく。本学では

- ① 事業推進会議のメンバーとして、宮内清子学部長、豊田ゆかりセンター長が担当。
- ② 人材育成事業部会のメンバーとして宮内清子学部長、豊田ゆかりセンター長、岡田ルリ子講師、奥田美恵講師が担当。さらに学内協力メンバーとして窪田静准教授、徳永なじみ講師に協力を得る。
- ③ 地域包括ケアシステム構築支援部会メンバーは野村美千江教授、鳥居順子講師、入野了士助教が担当。

4) 事業内容

(1) 事業実施のための事前打ち合わせ日時・場所・内容

「地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成事業」実施にむけての事前打ち合わせ会議

- ① 日時：平成27年5月13日（水） 13:30-16:00

場所：西予市 今後の活動について

参加者：西予市関係者7名、大学（宮内・豊田・事務局次長・本田）

- ② 日時：平成27年10月29日（木） 13:30-15:30

場所：西予市 関係者との協議

参加者：西予市好例福祉課関係者6名、西予市地域包括支援センター長、
大学 宮内

(2) 関係機関への協力依頼

- ① 日時：平成27年6月11日（木） 14:00-16:00

場所：西予市野村町・西予市保健福祉センター、西予市野村町ふれあい館にて関係者への協力依頼

- ② 日時：場所：平成27年6月26日（金） 18:00-19:00

場所：東宇和医師会事務局

(3) 地域包括ケア人材育成プログラム開発会議開催のための事前打ち合わせ

- 第一回 平成 27 年 11 月 30 日 (月) 西予市 事業確認及び会議内容検討
第二回 平成 28 年 1 月 20 日 (水) 西予市 第一回研修会事前打ち合わせ
第三回 平成 28 年 2 月 20 日(土) 西予市 第二回研修会事前確認
第四回 平成 28 年 3 月 2 日 (水) 西予市 第二回研修会会場事前確認

(4) 地域包括ケア人材育成開発会議開催

- 第一回 平成 27 年 12 月 15 日 西予市 開発会議メンバー事業検討

(5) 地域包括ケアシステム構築支援部会開催

- 第一回 平成 28 年 3 月 7 日 (月) 西予市 地域包括ケアシステム構築

(6) 地域包括ケアを考える研修会実施

①第一回地域包括ケアを考える研修会開催

日時：平成 28 年 1 月 30 日 (土) 13:00-16:00

場所：西予市教育保健センター 4 階大ホール

内容

- ・基調講演：「地域包括ケアシステム構築の意義と方向性」

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長 新開 省二

- ・パネルディスカッション

テーマ：「地域根差した包括ケアシステム構築にどう取り組むか」

パネリスト：地元自治体の立場から

西予市長 三好 幹二

地域の医療を担う立場から

西予市医師会長 三好 康司

地域の福祉を担う立場から

西予総合福祉会老人事業部長 富士森 斉

人材の育成・向上研修に関わる立場から

愛媛県立医療技術大学 保健科学部 学部長 宮内清子

助言者：東京都健康長寿医療センター研究所 副所長 新開 省二 先生

座長：西予市 生活福祉部 健康づくり推進課 課長 吉川 多賀子

愛媛県立医療技術大学 保健科学部 学部長 宮内清子

②第二回地域包括ケアを考える研修会開催

日時：平成 28 年 3 月 5 日 (土) 13:00-16:30

場所：愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

内容

- ・基調講演：「地域で支える認知症ケア」

獨協医科大学看護学部 在宅看護学領域 教授

特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 代表理事 六角 僚子

- ・教育講演：「高齢者の認知機能と運転～悩める家族への対応～」

5) 評価

①第一回地域包括ケアを考える研修会開催

アンケート調査対象数：107名（開催主催者含む参加人数は136名）

回答数・有効回答数：105（98.13%）

参加動機：上司・仲間からの勧め34名、自主的な参加67名、その他4名

講演について：理解できた99名、理解できない部分があった3名、未回答3名

- ・予防医学的視点からの話が興味深く紹介される事例はとても参考になった。
- ・理解できない部分があり、もう少し詳しく聞きたい。ほかの要因として介護保険料の低下や新規者の減少、生活習慣病予防からの脳卒中発症等が低下した要因はないか？
- ・健康寿命をいかに伸ばして行くか考える上での良い指針となった。
- ・介護保険料の低下があった地域がある事、介護予防教室など地域のつながりを深めていくこともその結果につながっていくことに勉強になった。
- ・健康づくりの戦略は中年期と更年期では違うことがわかった。フレイルに着目した具体的な取り組みが参考になった。
- ・セルフケアの応援手帳や指南書を見てみたいと思った。シルバー人材センターからグループで出向く健康教室は良いアイデアだと思った。1人1000円もいい、無報酬では継続しない。
- ・今後の地域包括ケアシステムのイメージが分かった。また、介護予防の重要性もわかり、地域の資源を活用しながら予防に努めるためには、まず地域資源の調査発掘、作ることが大切と思った。

パネルディスカッションについて：理解できた96名、理解できない部分があった2名、未回答7名

- ・自分の住んでいる西予市について具体的な問題点や取り組みが知れて良かった。
- ・各分野からの専門的な話を聞き、アシシステムの構築が急務になっていることを感じた。
- ・それぞれの立場からの発言があり、とても良かった。
- ・一人ひとりの時間がもっと長ければよいと思うくらいだった。

研修会の意見や感想：

- ・市長の話の伺い、西予市の未来を垣間見れたように思う。とても具体的な内容で理解できた。
- ・西予市の取り組み（地域包括ケアシステムについて）の具体的な内容が良く理解できなくて、そのあたりの話も機会があれば聞きたい。
- ・医療、福祉施設、行政、教育の立場から考える包括ケアシステムの構築及び現状の

話が聞けてよかった。

- ・これから、どのように活動していくのか多職種と一緒に考えていきたいと思った。
- ・人材育成の話には興味があった。人の力は大事だと再認識した。がんばれるような環境にありたいものである。
- ・会場が狭い。パイプ椅子ではお尻が痛かった。
- ・私たちの職種もお忘れなく呼びかけください。

②第二回地域包括ケアを考える研修会開催

アンケート調査対象数：110名（開催主催者含む参加人数は131名）

回答数・有効回答数：97（88.18%）

参加動機：上司・仲間からの勧め30名、自主的な参加60名、その他6名、
未回答1名

基調講演について：理解できた97名、理解できない部分があった0名、未回答0名

- ・現場に基づいた話で参考になった。フットケア、嚥下訓練など訪問看護でも取り入れていきたい。
- ・実践を含めてもう少し詳しく認知症の症状について聞きたい。
- ・主症状と随伴症状について特に理解しやすかった。
- ・すごく分かりやすかった。世代間交流がとても幸せな気持ちになる。きっとお互い良い影響があるのだろうと思った。子どもから教えてもらった。年相応の認知症と判断してはいけないことを理解した。
- ・やる気の無い職員にどのように対処されているのか具体的に伺いたいと思った。
- ・とても分かりやすいよい話だった。全員一緒ではなく個々に対応して関わるのが大切であると再認識させられた。
- ・認知症の方の心を見るという視点を改めて勉強になった。

教育講演について：理解できた95名、理解できない部分があった0名、未回答2名

- ・「納得させる」ポイントを学ぶことができた。
- ・運転に対する不安を確認したり、本人や家族と一緒に運転を続けても問題ないかを折々に相談することをケアプランに入れようと思った。
- ・山間部には、車の運転は生活に必須、必要だからこそ、危険と思う状態と自分が分かるように本人が納得して免許の返納ができる様にすると共に、行政や民間商業施設等と連携した返納後の対策が必要。バスも朝と夜、バス停までが何kmもある地域が多い。
- ・支援の方向性について、取り組みの実際を紹介していただけたらありがたい。（先進的に行っているところなど）
- ・本当に止めるときは難しいと思う。本人の自覚はもちろんのこと周囲の方の思いも分かるように伝えることが必要だと思う。

**啓発劇について：地域の人々の認知症啓発活動に活用したい84名、活用は難しい3名、
未回答10名**

- ・住民の声かけや、気にかけてあげることの大切さを学んだ。
- ・認知症の理解やケア会議という方法を理解してもらうために有効だと思った。地域の方に分かりやすい。
- ・民生委員さんの活動がこのようなことがあるのをよりよく知れた。
- ・分かりやすくユーモアを交えながら楽しく観させてもらえた。いろんな方に観てもらえたらと思う。



8. 第5回とべ子育てフェスタ

1) 概要

砥部町の子育て支援に関わる関係者と子ども・親など町民一人ひとり、および団体・企業が協力し、地域社会全体で、子育て・子育てを応援することを目的とする。“とべキッズお仕事体験”では、子どもたちに様々な職業を体験してもらい、働くことの喜びを感じ取ってほしいと企画・開催された。

2) 実施主体

主催：NPO 法人とべ支援団体ぽっかぽか

地域交流センター員（山岡源治准教授、相原ひろみ助教）

北尾孝司准教授、高田智世講師、岡村法宜助教、藤原紀世子助教

学生ボランティア 看護学科 5人

実行委員会：① 4月20日（月）：関係者紹介、趣旨説明、実施計画、広報について
（地域交流センター長出席）

② 6月15日（月）：応募状況、当日スケジュール、役割分担
16:00～藤原助教出席予定

3) 事業内容

(1) 日時：平成27年6月28日（日）13:30～16:30

(2) 場所：砥部中央公民館・保健センター

(3) 参加者数：看護師ブース

臨床検査技師ブース

(4) 実施者：

臨床検査技師ブース（洋室）

講師：山岡源治准教授、北尾孝司准教授、高田智世講師、岡村法宜助教

看護師ブース（和室希望）

講師：藤原紀世子助教

ボランティア学生：看護学科3年生2名、4年生3名 計5名

写真係：相原ひろみセンター員

(5) 実施内容

参加人数は、基調講演に親子300人程度、お仕事体験には、子ども149名（申込み160人、ボランティア協力の中学生30名、他35人が参加した）。

① 全体：1回の体験時間は30分とし、休憩をはさんで3回実施した。子ども7～8人が保護者とともに希望するブースを訪問し、そこで仕事を体験する流れで行った。

② 臨床検査技師ブース：参加人数29名（年齢は年長から小六まで、小二10名、小四

7名、小一5名、年長4名)。

子どもたちが、砥部町のゆるキャラ「とべっち」のカンバッジをつけた簡易白衣を着用して、講師によるお仕事紹介を聞いたのち、以下の3つのブースに分かれて、順番に体験する流れで行った。

ア 体の表面の温度を測る：サーモグラフィーを用いて、ドラえもんのおもちゃを用いて、どこが暖かくなったかをさぐる実験により、視覚的に温度変化を感じてもらった。また子ども自身をサーモグラフィーで撮影した。

イ 血糖値のことを知る：3つの検査ブースを設置した。

a. 幼児用の色が変わる試験薬を用意したブース

b. 小学校低学年用の試験薬を用意したブース

c. 小学校高学年用の試験薬（機械）を用意したブース

以上のように発達段階に合わせた3段階のブースを用意し、対象者の年齢に応じて保護者とともに試薬による血糖値を経験してもらった。

ウ 手のばい菌を知る：培地に菌を培養し、幼児にも菌が見えるようにしたシャーレを用意した。また、染色したブドウ球菌を顕微鏡で見るブースを設置した。

③ 看護師ブース：参加人数20名（年少～小六）。

子どもたちがユニフォームを着用し、聴診器で心音を親子ペアで聞いてもらった。あわせて、包帯の巻き方を体験した。

④ 参加者の反応および今後の課題

ア 臨床検査技師ブース：糖の検査で、尿、血液の模擬測定と自己血糖測定器による測定を行った。小さいお子さんがいたので、自己血糖測定器で数字の意味を理解するのが難しかった様子であった。やはり、色が変わる、発色するものの方が伝わるようだった。その他の紙芝居風の検査説明や、ドラえもんのサーモグラフィー、手のばい菌を顕微鏡で観るのは安全かつ分かりやすく、対象からの反応は上々であった。

イ 看護師ブース：ユニフォームに着替える（服の上から羽織る）段階で、親子で写真撮影を行い、大変楽しそうな様子であった。聴診器で親子間または姉妹間で心音を聞くのは、楽しそうであるが、微妙に聞こえにくい（聴診器のサイズが子どもに合っていない？）ため、聞こえづらい子どもさんもいた様子であった。包帯は、手と足に巻いて、巻いたまま次のブースに移動するくらい好評であった。

子どもも親御さんも白衣着用を喜ぶため、できれば今年の卒業生からも白衣を集める必要がある。ピンクをあるだけ（9枚）持参したが、ワンピースタイプだったため、急遽ボランティアの学生さんが着替えて貸してくれた。一人だけブルーというのもかわいそうなので、どちらかの色が充足するぐらい準備が必要と考える。加えて、現在は、洗濯したりクリーニングに出したりとバラバラな管理方法となっており、収納ケースに入れていたユニフォームの衛生面を考えると、クリーニングに出した上で、収納ケースに防虫剤を入れる必要がある。

ウ 来年度への課題：去年から規模が大きくなって、他のブースが終わらない、あるいは移動に時間がかかり、先に来ている子を待たせてしまうと状態になっている。2グループ目以降の始まり時間は、時間で始めることが難しい場合が考えられるので、参加者が来た時点で退屈しないように段階的に開始することも検討する必要がある。

参考：本学以外のお仕事体験ブース

家をデザインするお仕事、救急救命士、銀行員、印刷のお仕事、飼育員、介護士、歯科衛生士、管理栄養士、学校の先生、保育士、陶芸、自衛隊のお仕事、自動車整備士、薬剤師、

4) 写真によるお仕事体験の様子

(1) 臨床検査技師ブース



(2) 看護師ブース



9. 2015 子どもの夢プロジェクト 子どものいのちと体を守るお仕事体験

1) 概要

難病や障害をもつ子どもと家族を支援する団体である NPO 法人ラ・ファミリエが、ファミリーハウスあいなどの啓蒙・広報活動の一環として、子ども達が将来社会の一員として育つことを願い、子ども達の将来の夢や仕事につながる医療関係情報を提供し、子ども達が主体となって参加し夢や仕事を考える機会となる事業を行った。また、健康教育や病気や障害についての相談の場となるような機会も提供した。

愛媛県立医療技術大学は、お仕事体験ブース（病院のお仕事体験）の内、看護師部門、助産師部門、臨床検査技師部門の 3 部門を担当した。

2) 実施主体

主 催：特定非営利活動法人ラ・ファミリエ

後 援：愛媛県、松山市、愛媛新聞社、NHK 松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ

3) プロジェクトメンバー

看護学科：枝川千鶴子、井上明子、相原ひろみ、高田律美、森久美子

臨床検査学科：山岡源治

学生ボランティア：看護師、助産師ブース 6 名、臨床検査技師ブース 3 名 計 9 名

4) 事業内容

(1) 日時：2015 年 8 月 23 日（日） 10：00～17：00

(2) 場所：エミフル MASAKI 1 階 グリーンコート

(3) 参加人数

昨年より少なかったものの、看護師ブース：101 名、助産師ブース：120 名、臨床検査技師ブース：127 名、のべ 348 名の参加者があり、たいへん盛況であった。

(4) 実施者と実施内容

① 教 員（看護学科）：枝川千鶴子准教授、井上明子助教、相原ひろみ助教、高田律美助教、助教

（臨床検査学科）：山岡源治准教授

ボランティア：学生 9 名（看護師、助産師ブース 6 名、臨床検査技師ブース 3 名）

② 実施内容

・お仕事体験ブース（病院のお仕事体験）；②～④を愛媛県立医療技術大学が担

当)

① 医師：診察・超音波検査

② 看護師：血圧測定、聴診体験、包帯を巻く、など

ピンクやブルー・ホワイトの白衣の中からお気に入りのものを 試着し、看護師さん体験をした。子供たちが看護師さんとなって、家族の方やボランティア学生に対して血圧測定・聴診体験や包帯を巻く体験を行った。血圧のマンシュートを巻いてシュポシュポと送気球を押すのは難しかったようだが、トクトクと音が聞こえた時に「初めて聞いた」と目を見開きニコッとする様子が見られた。聴診体験では、呼吸の音や心臓の音を聞き比べたり、兄弟やお母さんと聞き比べをしたりした。包帯は腕にぐるぐる巻き上げ固定をする体験をした。

③ 助産師：赤ちゃん抱っこ おむつ交換 寝衣交換、など

本物の赤ちゃんそっくりな人形を用いて抱っこやおむつ交換、寝衣交換を実施した。子ども達は、赤ちゃんの重さを感じながら優しく声をかけたり、慣れない手つきでオムツを交換したりしながら、お父さん・お母さんから生まれた時の様子などを聞くなどして、「おおきくなったね」と家族で成長を振り返っていた。

④ 臨床検査技師：顕微鏡による血液の観察、血液型の判定など

ABO 式血液型検査と顕微鏡による標本観察を行った。また写真撮影などを実施した。顕微鏡で、白血病細胞や赤血球中に寄生しているマラリア原虫を観察してもらった。また、血液型検査では、抗血清を用いて赤血球の凝集を観察した。そのほか、白血病の発症機序、疫学および種類、造血のしくみなど簡単に説明した資料を展示し、正常にみられる白血球との違いを見てもらった。

⑤ 救急救命士：救急車・救命士の仕事 AED の利用方法、救急車展示

⑥ 聖カタリナ大学短期大学部保育学生イベント：子供の遊び体験

⑦ 相談ブース：子供の病気や障害の相談、就労に関する相談、小児慢性特定患者に関する相談

・その他

・人形劇：「おたこ組」公演

・民話：「えんことどんこ」公演

5) 評価と課題

(1) 看護師ブース・助産師ブース

例年と違って、来場者もタイミングよく来られたので、待ち時間も少なく体験をしていただくことができた。また、対応する教員やボランティア学生も昨年より少ない人数だったが、シフト表による役割分担を明確にして関わったため、時間を有効に使って対応することができていた。課題としては、イベントは 10 時～17 時で前後の準

備・片付け時間を含めると長時間であるため、参加時間について検討する必要があると考える。

(2) 臨床検査技師ブース

今年度は準備中から多く子供たちや保護者が集まり始めたが、教員とボランティアが顕微鏡と血液型各々2名ずつ計4名で対応したため、大きな混乱や事故はなく、長い行列ができることなく、比較的スムーズに対応できた。しかし、参加する子供の大半が幼稚園児から小学校低学年であったことから、血液型検査では手袋のサイズが大き過ぎ、抗血清を1滴落とすだけの操作も難しい場合があり、血液を取り扱う検査の体験はかなり危険を伴っていた。来年も実施するとすれば、年齢制限を明確にするか、別の検査を考える必要があると思われた。顕微鏡による血液細胞の観察では、マラリアより白血病症例の方が病気と正常の区別をしやすかった。

いずれのブースにおいても、子供や保護者の方々が楽しそうに様々なお仕事体験に取り組んでおり、長丁場ではあるがとても充実した1日であった。教員や学生ボランティアにとっても、本企画を通して一般の人々と触れ合う貴重な体験ができるとてもやり甲斐のある事業の一つであることが実感できた。

今年度は、スタッフは人数的には不足しなかったものの、丸一日ほとんど途切れることなく参加者が訪れていたことから、休憩時間を十分に取ることができなかった。そのため午前と午後に分けて参加すること等考慮すべきであると思われた。企画内容は、今後も継続していくとすれば少しずつ刷新し、より安全でよりインパクトのあるものに取り組んでいく必要があると考える。



10. リレー・フォー・ライフ (RFL)

1) 概要

がん患者・家族、支援者が集い24時間をともに過ごすことにより「がん」に関する正しい知識と「がん患者・家族」への理解を深め、地域社会全体でがんについて考える契機になることを目的とするリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 えひめのチャリティ活動に、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者と時間を共有する。

2) 実施主体

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 えひめ実行委員会

3) 組織

本部付役員：松井美由紀講師、枝川千鶴子准教授、宮宇地助教

地域交流センター員：相原ひろみ助教

学生で構成する RFL 実行委員会（代表：臨床検査学科 3 年 藤田優城）

4) 事業内容

(1) 日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）、18 日（日）12:00～12:00

(2) 場所：城山公園 堀之内地区 ふれあい広場

(3) 参加者数：がん患者、家族、支援者、一般の方 約 2,500 名

実施内容：

①リレーウォーク

②ルミナリエバック

③日本対がん協会への寄付

④本部実行委員会参加（5～10月毎月1回平日夜）

⑤当日クイズラリー実施

⑥学内結団式 平成 27 年 10 月 6 日（火）

(4) 結果評価の方法：参加者人数、写真撮影

5) 評価と課題

本事業は、平成 22 年から連続して 6 年目の開催となるがんについて考える機会となるイベントである。

本学の教職員チームのリレーウォークへの参加は 24 名（参加費 12,000 円）であった。学生の本部役員は 5 名、学生ボランティア 32 名、学生のリレーチームは 47 名であった。

参加者はがんサバイバーをはじめ県内の医療関係機関が多く参加し、晴天のなか開催された。



横断幕とフラッグとたすきを持ってリレーを続けます。



学生チームも頑張ります。



夜になって、ルミナリエに点灯されセレモニーが行われました。



応援に駆け付けたみきやんとダークみきやんを激写。



リレー後の記念写真です。

1 1. 砥部町赤ちゃんふれあい体験

1) 概要

少子化問題への対応の一環として、県立医療技術大学の学生を対象に子ども・子育て支援、少子化対策に関する前向きな機運の醸成に取り組む。

赤ちゃんふれあい体験では、学生たちが乳児及びその保護者とのふれあい体験・交流を通じて少子化対策への取組の重要性について考える機会とする。あわせて、学生自身が結婚から妊娠・出産・育児を一層身近なこととして捉え、自らの将来像を描く際の一助となることを目的とする。

2) 実施主体

砥部町介護福祉課

NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか

3) プロジェクトメンバー

企画者：NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか

地域交流センター 豊田ゆかり

4) 事業内容

(1) 日時：平成 27 年 11 月 26 日

(2) 場所：県立医療技術大学 161・162 地域看護実習室

(3) 参加者：本学看護学科学生 2 年生・4 年生参加希望者 16 名

町内在住の乳児及びその保護者 約 8 組

(4) 内容：① 少子化の現状と子育て支援に関する解説

講師：中橋恵美子 氏

「少子化社会対策大綱の具体化に向けた結婚・子育て支援の重点的取組に関する検討会（内閣府）」構成員

② ワークショップ

- ・乳児とのふれあい、関わり方の体験
- ・母親との交流、結婚・妊娠・出産・育児等についての対話
- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の考察

5) 評価：アンケート結果より（は平成 27 年度 砥部町赤ちゃんふれあい体験事業 報告書から自由記載を一部抜粋）

(1) 学生

- ・講和を聞き今の社会の現状に深刻になることができましたが、これから少子化を改善できるように医療者側と母親側両面で貢献していきたいと決意することができた。
- ・実際経験されたお母さんのはなしはリアリティがあり、とても勉強になった。
- ・「助産師さんがいたから頑張れた」という言葉がとても心に響いた。助産師になりたいと思う気持ちが強くなった。
- ・お産も個人個人に個性があるように一人ひとり違うことを改めて学んだ。
- ・教科書で乳児について学んできたが、やはり実際の話をお聴くとイメージが全然違う

なあとおもった。お母さんと子どもの間で結ばれる愛情が感じられた。

- ・年齢の違う赤ちゃんとふれあって、成長の過程がわかりやすく見えてよかった。
- ・とにかくかわいかった。自分の赤ちゃんがほしくなった。

(2) お母さん

- ・夢をもった学生さん達とお話が出来、あっという間に時間が過ぎていきました。学生生活について自分の知らないことが聞けたので良かったです。娘も大人のおねえさんと遊べて楽しそうでした。
- ・中学生・高校生のふれあい体験の時にゆっくり話せなかった出産体験の話を真剣にきいてくれました。
- ・私と話した学生さんは産科に進むようにしているみたいで出産の時のことをいろいろ聞いてくれて、あっという間の時間でした。学生さんに「私みたいなお母さんになりたい！」と言ってもらえた時は涙がでそうでした。
- ・母になり、引きこもりがちになってしまう日々で悶々としていることが多いので、新鮮な学生さんとお話ができる機会は楽しかった。
- ・母親になる人に、体験させて上げられてよかった。今後もあるといいと思う。
- ・自分の体験や思いを伝えられて良かった。



Ⅲ 調査研究

1. 地域包括ケアシステムにかかわる地域ニーズ調査

1) 趣旨または概要（意義・ねらい・目的・対象者等含む）

南予地域における高齢者の地域包括ケアシステムの充実を図ることを目指して、地域の実態に即した人材育成プログラムの開発を行うために、西予市の保健医療福祉関係機関・施設における就労者の現状及び人材育成に対するニーズを調査し、実態を明らかにする。

なお、本調査は、「地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成事業」の一環として、事業決定を見越して予め着手する。

2) 実施主体： 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター、

共催：西予市 福祉事務所 高齢福祉課

3) プロジェクトメンバー

愛媛県立医療技術大学 宮内清子、豊田ゆかり（地域交流センター長）、

岡村絹代、奥田美恵、入野了士、鳥居順子（センター担当員兼務）

4) 事業内容

(1) 調査対象 西予市の保健医療福祉関係機関・施設の管理者及び保健医療福祉関係職者

(2) 調査内容と方法

①社会資源調査：西予市内の高齢者の生活を支援する保健・医療・福祉機関の住所・数を把握する（方法：既存の資料等、期間：平成27年7月13日～22日）

②事業主調査：「在宅ケアを担う人材の就業状況実態調査」

西予市内の高齢者の生活を支援する保健・医療・福祉機関の責任者又は管理者を対象に、各施設の活動目的・支援内容・職員の数及び職種、OJT（日常の業務につきながら行う教育訓練＝On The Job Training）及びOFF-JT（通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練＝Off The Job Training）の実施状況、事業主が希望する研修方法及び研修内容）について調査する（方法：郵送による自記式アンケート法及びインターネット（キントーン）を活用した調査、期間：平成27年8月17日～28日）。

③専門職調査（ケアマネジャー・看護職・介護職等）：「在宅ケアを担う人材育成に関するニーズ調査」

資格・免許、年齢、性別、経験年数、勤務形態、主な職務の内容、これまでに受けたOJT及びOFF-JT、研修希望場所、希望する研修内容、時期・回数・時間等（方法：郵送による自記式アンケート調査、期間：平成27年9月11日～24日）

(3) 結果の概要

①調査対象数と回収率

社会資源調査をもとに、西予市内の医療機関 43、福祉関係施設 167 を対象に人材の就業状況を調査し、回収数(率)は医療機関 24(55.8%)、福祉関係施設 73(43.7%)であった。就業事態調査をもとに、ケアマネジャー・看護職・介護職等の専門職者 1,232 人を対象に人材育成に関するニーズを調査し、回答数(率)は 1,039(84.3%)、有効回答数(率)は 1,089(82.7%)であった。

②事業主調査：「在宅ケアを担う人材の就業状況実態調査」

医療機関 24 施設で就業している看護職は 267 人、介護福祉職は 51 人、ケアマネジャーは 6 人であった。福祉関係施設 73 施設で就業している看護職は 133 人、介護福祉職は 826 人、ケアマネジャーは 96 人であった。

研修の実施状況では、医療機関 24 施設中 13(54.2%)、福祉関係施設 73 施設中で 67(91.8%)が実施と回答した。実施テーマは医療機関では感染対策、医療安全、倫理関係が上位に上がり、福祉関係施設では認知症、介護等の技術研修、救命救急、感染安全対策、虐待防止、リスクマネジメントなどが上位に上がっていた。

③専門職調査(ケアマネジャー・看護職・介護職等)：「在宅ケアを担う人材育成に関するニーズ調査」

対象者の職務経験年数を 5 年刻みで見ると、介護福祉職とケアマネジャーは 5 年未満の者と 5~9 年の者が多く、介護福祉職 232(36.0%)と 182(28.2%)、ケアマネジャー 23(33.8%)と 27(39.7%)であった。看護職は 5 年未満の者が 68(26.2%)と一番多かったが、5 年以上では散らばっており、20 年以上を合わせると 83(31.9%)いた。勤務形態では常勤が多く、介護福祉職 488(75.7%)、看護職 199(76.5%)、ケアマネジャー 65(92.9%)であった。

研修参加状況は、参加ありが多く、介護福祉職 488(77.2%)、看護職 183(70.4%)、ケアマネジャー 66(94.3%)であった。希望する研修内容(自由記載)で、共通して多かったのは認知症と終末期ケアで、介護福祉職 123 と 100、看護職 35 と 29、ケアマネジャー 16 と 16 であった。介護福祉職では生活支援技術 123、コミュニケーション 102、移乗移動技術(ノーリフト) 89 が多く、看護職では急変時の看護(対応)が 41 で最多、ケアマネジャーでは他施設との連絡情報交換 12 が多かった。

なお、結果の詳細については別紙報告書がある。

5) 評価と課題(次年度に向けての計画を含む)

予定されていた「地域包括ケアシステムの充実を指向した在宅ケアを担う人材育成事業」は、「地域包括ケアシステム人材育成等支援事業」という名称で平成 27 年 10 月からスタートし、本調査結果を受けて初年度の研修が企画された。同事業は平成 29 年度までの 3 年計画であり、2 年目の研修等にも本調査の結果が生かされる予定である。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	企画・実施： 愛媛県	<p>「愛媛県介護支援専門員地域リーダー養成研修」は、平成 18 年度から養成をスタートした“主任介護支援専門員”に、さらに地域包括ケアの力量を形成することを目的に平成 22 年度から新規にスタートさせた高齢者介護の地域リーダー（各市町推薦）育成のための研修であり、愛媛県長寿介護課の支援要請を受けて研修プログラムの作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、基本的な講義、県内 7 ブロックでの演習支援、実施後の評価に協力している。また、年 2 回の長寿介護課主催の研修会には、講義・助言者等を務めており、平成 27 年度も引き続き支援を行った。</p> <p>講義：①地域包括ケア体制の実現を目指すコミュニティネットワークづくりと地域リーダーの役割、②「地域別演習」報告への助言およびグループワークのまとめ・助言、③各ブロックの研修会の企画支援、講義・助言：東予・八幡浜・宇和島の 3 ブロック</p>	主任介護支援専門員研修を修了した地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員	学部長
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県 社会福祉協議会	<p>平成 27 年度愛媛県介護支援専門員「実務研修」6 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習を一部担当。</p> <p>実務研修は、資格試験に合格した介護支援専門員に対する最も基本的な研修であり、資格取得者の動機付けと力量形成を目指して、指導者チームを組織化して毎年度評価を重ねながら、改善を図っており、平成 24 年度から設置した質保証を目的とする評価委員会を中心に、指導者間の指導の均質化を図るべく評価のポイントなどを資料化し、一定の成果を修めた。</p> <p>担当科目：ケアマネジメントの意義と役割、ケアマネジメントの展開過程、居宅サービス計画作成の講義・演習、チームアプローチ演習、介護予防ケアプランの考え方講義・演習</p>	介護支援専門員研修受講資格試験合格者	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県 社会福祉協議会	平成 27 年度愛媛県介護支援専門員「基礎研修」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習の一部を担当。基礎研修は、実務に就いて 1 年未満の実務者のスキルを定着させることを目的としており、演習を中心にしてケアマネジメントの技術を確認しつつ指導するもので、毎年度教育の評価を行い修正を加えながら展開している。 担当科目：①講義「ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方」、②事例演習	介護支援専門員就業後 1 年未満の者	学部長
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県 社会福祉協議会	平成 27 年度愛媛県介護支援専門員「専門研修Ⅰ」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。この研修は、就業後 6 カ月以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、選択科目を導入し、個々人のニーズにも対応している。毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。 担当科目：ケアマネジメントを担う介護支援専門員の倫理	介護支援専門員就業後 6 カ月以上の者	
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県 社会福祉協議会	平成 27 年度愛媛県介護支援専門員「専門研修Ⅱ」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。専門Ⅱ研修は、就業後 3 年以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、介護保険利用者の事例検討を中心に資質向上を図っている。毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。 担当科目：事例検討の理論と実際(演習を含む)	介護支援専門員就業後 3 年以上の者	
宮内清子	企画：愛媛県 事業実施機関：愛媛県 社会福祉協議会	平成 27 年度「主任介護支援専門員養成研修」は、平成 18 年度の介護保険法改正により都道府県に義務付けられ継続実施している研修で、市町村地域包括支援センターなどにおいて地域の介護支援専門員のスーパーバイザーとして卓越したマネジメント力と地域ケアネットワーク構築の役割を期待して育成するもので、12 日間の研修プログラムを展開しており、一部の講義を担当している。 担当科目：主任介護支援専門員の役割と視点、事例研究及び事例検討の指導方法、地域ネットワークの作り方(演習を含む)	介護支援専門員実務経験 5 年以上で、市町村の推薦を受けた者の中から選考	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	愛媛県老人 クラブ連合 会 平成 26 年度「健康 づくり大学 校」 企画 運営委員会	愛媛県老人クラブ連合会主催の 11 日間の研修会の運営副 委員長として、鬼北町における「南予地区高齢者大学校」 の企画・プログラム作成を支援し、一部講義を担当した。 担当科目：高齢者の健康づくり	中予地区 各市町の 老人クラ ブ役員及 びリーダ ー	学部長
宮内清子	企画・実施： 愛媛県	平成 23 年度から制度化された特別養護老人ホーム等に勤 務する介護職員等に対する「たんの吸引・経管栄養等の研 修」をスタートさせるに当たり、長寿介護課・障害福祉課 の研修委員会の構成員として企画運営に参画し、研修対象 の選定、研修プログラムの作成・研修講師の選定などにつ いて助言・支援を行うとともに、全体の調整、研修の評価 等の役割を果たした。研修 5 年目を迎えて、研修プログラ ムも円滑に運ぶようになり、前年度よりも効率的に実施で きた。	愛媛県内 の特別養 護老人ホ ームなど で勤務す る介護福 祉士、障 がい者の 在宅ケア に関わる 介護福祉 士等	
宮内清子	企画・実施： 愛 媛 県 研修協力機 関：愛媛県 社会福祉協 議会	高齢化の急速な進展により、高齢者施策の一連の見直しが行 われる中、介護保険サービスを調整する介護支援専門員 のマネジメントの視点や役割についても再検討がなされて いる。その中で、厚生労働省は、介護支援専門員の研修課 程について大きな見直し案を示しており、各都道府県にお いて研修体系の全体的な修正が必要になった。愛媛県では、 平成 27 年 5 月、「研修向上委員会」を設置し、平成 28 年 度からの研修会市に向けて検討を始めることになり、向上 委員会の副会長及びカリキュラム検討専門部会の部会長と して役割を担うことになった。平成 27 年度は、3 回の質向 上委員会と 10 回の専門部会において、研修体系の構築、 研修内容の検討、年間計画の設定などの協議を行うなど、 平成 28 年 5 月からの研修開始に向けて支援を行った。	愛媛県内 で活動す る介護支 援専門員 で各段階 別研修を 希望する 者	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
宮内清子	愛媛県「母子保健研修事業」における企画、講義及び助言支援	母子保健法の改正に伴い、保健所と市町村の担う役割にも変化が生じていることから、愛媛県の主管課においては、3年計画で「母子保健研修事業」を実施することになり、その企画実施について助言・支援を行った。また、平成27年度は[PDCA サイクルに基づく母子保健事業の進め方]をテーマに年間5回の継続研修を支援し、参加型研修のスーパーバイズを行うとともに、必要に応じてミニ講義等を行った。併せて、年間のまとめとして「成果発表会」の助言支援を行った。	愛媛県保健福祉部健康増進課担当職員及び県内健師	学部長
野本百合子	愛媛県立病院	平成27年度県立病院看護職員合同研修 県立中央病院の4病院の教育担当者から依頼を受け、県立4病院に所属する看護職員のうち主に就職後3年目の職員を対象とする「看護過程(基礎Ⅲ)」の研修企画への助言及び講義を実施するとともに、グループワークへの助言などを行った。	愛媛県立4病院に所属する看護職員(研修企画者及び主に3年目看護職員)	基礎看護学
相原ひろみ	十全総合病院看護部	看護研究の研修について相談を受け、年間計画の立案・研修内容の企画・研修の講師を引き受けて実施した。平成26年度から計画の相談を開始している。平成27年度まで2年継続して、看護研究の指導にあたり、研修生に指導を行っている。	十全総合病院看護師	
野村美千江	愛媛県保健福祉部	平成27年度愛媛県中堅期保健師スキルアップ研修について企画・運営の相談を受けるとともに、研修評価への助言や指導等を行いつつ、7カ月間の継続的な研修に参画した。	医療対策課地域看護係	
越智百枝	全日本断酒連盟 愛媛県断酒会 今治断酒会	アルコール依存症の理解と普及啓発のために、市民公開セミナーの開催に向けて平成27年4月に相談があり、同年11月29日の開催まで、講演及びシンポジウムの主旨の発案、企画・運営の助言、当日の講師及びシンポジウムの座長を行った。	一般市民断酒会員及び家族	地域精神看護学

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
越智百枝	八幡浜市	管内保健師や介護職等アルコール依存症者及び家族の支援をする関係職種に対し、アルコール依存症の理解と支援についての講演を依頼され、企画・運営の助言を行った。平成 27 年 12 月 1 日に講演を行った。	アルコール依存症者及び家族を支援する関係職種	地域 精神 看護学
越智百枝	八幡浜市	八幡浜市管内のアルコール依存症者及び家族を対象にアルコール依存症の理解と家族のかかわりについて講演を依頼され、事業の企画・運営の助言を行った。平成 28 年 3 月 25 日に講演を行った。講演に先立ち行われた断酒会に参加し対象家族の現状を把握するとともに、個々の家族に必要な情報を講演内容に反映した。	アルコール依存症者及び家族	
越智百枝	日本精神科看護技術協会 愛媛県支部	愛媛県支部研修会の一環として平成 27 年度の看護研究発表会に先駆け、看護研究についての講演依頼を受けた。平成 27 年 3 月に行われた看護研究発表会に参加し、愛媛県支部における看護研究の現状を把握するとともに、教育担当者に講演内容及び方法について助言を行った。今後は平成 27 年 5 月 16 日の講演に向けて、詳細な企画・運営について助言を行い実施していく予定である。	精神科看護師	
越智百枝	日本看護協会	質的研究についての研修会の講演依頼を受け、講演内容と方法、事前アンケートの項目などの助言を行った。平成 27 年 8 月 5 日に講義予定となった。平成 27 年 7 月に事前アンケートの結果から受講者の研修希望をを踏まえ、講演内容を最終決定し講演を行った。	看護師	
越智百枝	鬼北町	アルコール依存症者及び家族を支援する可能性のある民生委員等一般住民へのアルコール依存症の理解と支援についての講義依頼を受け、研修会の目的、一般住民に望むアルコール依存症者及び家族への支援の内容の明確化を行い、講義内容や方法について助言を行い、平成 27 年 7 月 15 日に研修会を実施した。	民生委員、食生活推進委員、精神保健ボランティアなど一般住民	
田中美延里 奥田美恵	愛媛県保健福祉部	平成 27 年度愛媛県地域保健師等研修会(新任期・プリセプター対象)について相談を受け、企画参画兼講師として継続的な研修各 3 回を支援した。	医療対策課地域看護係	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
窪田静	大洲市役所	福祉用具リーダー養成講座の企画と継続開催への助言	地域包括 支援セン ター職員	地域 精神 看護学
窪田静	医療法人朝 陽会 美須 賀病院	ノーリフティングケア推進のための講習会企画、技術的な 助言	総師長、 コアリー ダーグル ープ	
窪田静	ケアサポー ト まつや ま・クロス サービス	ヘルパーのための移乗用具と使い方の研修会開催支援	中予地区 障害ヘル パー連絡 会研修委 員	
奥田美恵	愛媛県保健 福祉部	平成 27 年度地域包括ケアシステム人材育成事業について、 西予市において 2 回の継続的な研修(地域包括ケアを考 える研修会)支援を行った。	南予地域 保健福祉 医療職者	
入野 了士	愛媛県保健 福祉部	平成 27 年度愛媛県中期保健師スキルアップ研修につい て企画・運営の相談を受けるとともに、研修評価の分析・ 評価を行いながら、7 カ月間の継続的な研修に参画した。	医療対策 課地域看 護係	
豊田ゆかり	愛媛県「母 子保健研修 事業」にお ける企画、 講義及び助 言支援	母子保健法の改正に伴い、保健所と市町村の担う役割にも 変化が生じていることから、愛媛県の主管課においては、 3 年計画で「母子保健研修事業」を実施することになり、そ の企画実施について助言・支援を行った。また、平成 27 年 度は[PDCA サイクルに基づく母子保健事業の進め方]をテ ーマに年間 5 回の継続研修を支援し、参加型研修のスーパ ーバイズを行うとともに、必要に応じてミニ講義等を行っ た。併せて、年間のまとめとして「成果発表会」の助言支援 を行った。	愛媛県保 健福祉部 健康増進 課担当職 員及び県 内健師	母性 小児 看護学
枝川千鶴子	愛媛県保健 福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修 (不特定の者対象)」における講義および演習の講師、評価	介護職員 等	
枝川千鶴子	愛媛県障害 福祉 課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修 (特定の者対象)」における講義および演習の講師	介護職員 等	
中越利佳	日本看護連 盟愛媛県支 部	「発達障害が疑われる人への指導について」をテーマに 2 回研修会を開催した。内容検討、講師依頼、研修会の企画・ 運営、研修会評価(アンケート集計)に関わった。	県内看護 職、看護 教育者	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会	お産の学習グループ・母乳の学習グループの内容検討、研修会の企画・運営に関わった。	県内 助産師	母性 小児 看護学
藤原紀世子	愛媛県立中央病院 小児医療センター	シンポジウム「小児がん患児のきょうだい支援」 企画・運営・座長・発表担当	県中・愛大・日赤病院の医師・看護師・保育士他	
中西純子	愛媛県保健福祉部生きがい推進局長寿介護課 & 障害福祉課	・平成 27 年度介護職員等によるたんの吸引等のための研修実施委員会（特定の者及び不特定の者）において、研修の企画、準備、運営、実施、試験問題の作成、実施、合否判定に携わった。	県内の介護職員	成人 老年 看護学
島田美鈴	市立大洲病院	私立大洲病院の指導的立場にある看護職員に対して、看護研究指導の研修について相談を受け、研修内容の企画兼講師として、継続的な研修を3回実施した。	市立大洲病院看護師	
岡村絹代	社団法人愛媛県看護協会	愛媛県看護協会会員教育「院内看護研究の効果的な指導に向けて」の中のグループワークのファシリテーターを務めた	県内看護師	
松井美由紀	愛媛県保健福祉部管理局医療対策課	「愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業」の企画連絡構成員およびファシリテーターとして 40 日間研修にかかわり、事例発表会などにも参加し助言指導を行った。次年度も引き続き、企画も含めて研修のファシリテーター役として関わる予定である。	県内看護師	
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局 県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開」研修について企画運営の相談を受け、研修講師およびファシリテーターとして関わった。次年度も引き続き、企画も含めて相談役およびファシリテーター役として関わる予定である。	県立病院看護職員	

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者	講座
山岡源治	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班世話人として、平成27年8月1日に世話人会に参加し、第2回四国血液検査研修会の企画立案における提言・議論等を行った。研修会は平成27年11月29日に香川大学医学部において、「あなたも知っておくべき血液標本の世界」というテーマで開催され、特別講演および症例の標本観察の指導技師を務めた。	四国地区の臨床検査技師	生体 情報学
山岡源治	四国臨床検査技師協議会 遺伝子・染色体検査研究班	昨年度香川県遺伝子・染色体検査研究班班長をしていたため、担当県として研修会を企画立案し、今年度は現班長をサポートし、準備・運営に携わった。研修会は平成27年12月6日に四国こどもとおとなの医療センターで、「検査室における遺伝子・染色体検査の現状と展望」のテーマで、一般演題4題、特別講演1題、教育講演2題の内容で開催され、会の運営と一般演題の座長を担当した。	四国地区の臨床検査技師	
佐川輝高	愛媛県	「愛媛県総合防災訓練」愛媛RB団員として団活動の支援を行うとともに、新宮公民館までの物資輸送を行った。	新宮町民	基礎 検査学
佐川輝高	伊予理科教室実行委員会	夏休み中全5回の砥部町における理科教室を内容立案、助成金獲得、実行を行った。既に5年行っているが、来年度の助成金申請も既に行っている。	砥部町民	
佐川輝高	砥部町	7月4日ひろた交流センターにて夏休み理科教室を開いた。内容立案、講師を行った。	砥部町民	
		保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援合計数	41件	

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表	講座
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援事業 （愛媛県介護予防市町支援委員会） *市町支援事業計画の策定 *介護予防事業評価事業 *介護予防事業推進方策の検討	平成27年度介護予防市町支援事業の計画策定、事業の運営について、支援委員会の会長として役割を果たした。主な内容として、平成23年度に作成した「介護予防に関する指針（運動、口腔、栄養、閉じこもり・認知症予防）」の改訂版を使用して、1市町で「複合プログラム」を実際に試行するモデル事業を展開し、プログラムの評価を行った。また、平成27年度から重点事業となった「地域の活性化と新しい居場所づくりモデル事業（四国中央市・新居浜市）及び介護予防モデル市町事業（大洲市・伊予市）の企画及び現地支援を行った。	愛媛県長寿介護課担当者及び愛媛県内の介護予防に関わる関係職種（医師・歯科医師・保健師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・介護福祉士・住民代表等）から成る委員会構成員	①モデル事業報告の関係市町への還元②新居浜市において、モデル地区住民主体の報告会を実施	学部長
宮内清子	第6期「愛媛県高齢者保健福祉計画・愛媛県介護保険事業支援計画」の推進・評価、第6期計画に関する協議、計画策定	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会の会長として、27年3月に作成した第6期の「愛媛県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」の1年間の進捗状況を評価するとともに、平成28年度の方角性について協議した。また、平成28年3月の会議において、引き続き平成28年度から3年間の委員会運営を担う会長として、第7期の計画策定をも視野に入れた会の運営を担うことになった。	推進委員会の構成員：学識経験者、医師会・歯科医師会等関係団体の長、高齢者保健福祉に関わる機関施設等の代表者、住民代表など	第6期計画の年度評価	

氏名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表	講座
宮内清子	地域における医療・介護総合確保推進法に基づく補助事業「地域包括ケア人材育成支援事業」の企画・運営・評価（西予市、愛媛県との共同事業）	<p>平成 26 年度からスタートした本事業の介護関係予算(27 年度開始)を活用して、本学の地域貢献事業を企画し、9 月議会において承認を受け 3 年計画での事業をスタートさせた。</p> <p>事業の目的は、全国的に高齢化の急速な進展に対応して地域包括ケアシステムの構築が重視されるなかで、愛媛県特に南予地域の高齢者比率の高さ、社会資源等の乏しさ、人材不足などに着目し、本学の教育機能を活用した研修事業を実施するとともに、地域の実態に即した農村型人材育成プログラム開発を行うことである。モデル市町は、南予の中心に位置し、高齢化率 40%、愛媛県で 2 番目に広い面積を有し農業・漁業等の産業が混在する自治体で、共同事業に賛同の得られた西予市とし、愛媛県長寿介護課と 3 者による共同事業の形をとり、本学では地域交流センター事業に位置付けた。</p> <p>平成 27 年度の主な取り組みは、①プログラム開発会議・専門部会等の組織化、介護の開催、②地域包括ケアシステム及び高齢者ケアに係る研修会の開催（於西予市 2 回）、③本学独自の取り組みとして事業前に実施した西予市の保健医療福祉関係施設調査・在宅ケア等に関わる専門職の研修ニーズ調査等である。</p>	<p>開発会議：西予市の保健福祉主管部局代表者及び専門職、西予市の保健医療福祉関係機関代表者、本学の事業企画責任者(学部長)及び地域交流センター長</p> <p>人材育成事業部会（専門部会）：西予市の主管部局専門職、医療福祉関係施設専門職、本学看護学科教員等</p> <p>地域包括ケアシステム支援部会：公衆衛生・地域看護学関係教員</p>	<p>年度計画に基づき事業実施報告書作成（愛媛県に提出）</p>	学部長

氏名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表	講座
鳥居順子	かかりつけ医師と精神科医師との連携の強化に関するアンケート調査	調査の実施報告書作成に当たり、オブザーバーとして結果の集計と分析に助言した。	松山市自殺対策推進委員会（事務局：松山市保健所）	実施報告書	基礎教育
野本百合子	院内看護研究研修	平成25年度に実施した研究成果の発表に向け、データ分析、抄録のまとめ方などについて助言した。また、平成26年度に開始された研究に関し、研究計画書の作成、データ分析の方法、抄録のまとめ方について助言した。	四国がんセンター 看護師など約40名	院内研究発表会、国立病院学会等で発表	基礎看護学
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の院内看護研究研修に参加した看護師11名	院内看護研究発表会および愛媛看護研究学会で発表	
野村美千江	自治体における生活習慣病重症化予防のための保健指導プログラムの効果検証	厚生労働科学研究補助金による戦略的研究(大阪大学)に協力し、介入自治体職員の研修や事例検討会の企画・実施等に参画した。	大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学	平成30年3月以降に成果発表	地域精神看護学
野村美千江	保健師教育の教育評価—到達目標達成度に関する全国調査	全国保健師教育機関協議会主催の調査研究として、左記のテーマに関する調査企画・調査票の設計等に携わった。	全国保健師教育機関協議会理事	ジャーナル投稿	
野村美千江 入野了士	自治体に働く中堅期保健師の専門能力を育成する 研修評価に関する研究	中堅期保健師研修（7ヵ月間）による受講者の専門能力育成を尺度を用いて評価するとともに直属上司へのインタビューで職場への影響を評価した。	愛媛県医療対策課および愛媛県看護協会	学会発表、事業報告書	

氏名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表	講座
越智百枝	かかりつけ医と精神科・心療内科医の連携に関する研究	調査票の作成、集計・分析・評価を共同して進め、今後の対策について検討した。報告書を共同で作成した。	松山市自殺対策推進委員会 ・松山市担当者・医療部会・鳥居順子先生	報告書としてまとめ、関係諸機関に配布する	地域精神看護学
窪田静	健和会におけるリフト支援；健和会補助器具センターの実践	リフト導入の経緯等のまとめと評価	太田智之（健和会補助器具センター、首都大学東京博士後期課程）	2015.7.5 第14回高知福祉機器展バリアフリーフェスティバル 2015 セミナー【あらゆるステージにおけるリフト導入と実践】で発表	
豊田ゆかり	中学生の生活状況と性に関する意識・行動調査	中予保健所が実施した中予保健所管内の中学生と保護者を対象とした調査結果の統計分析に関わった。	中予保健所難病・母子保健係	報告書としてまとめ、関係諸機関に配布する。	母性小児看護学
中越利佳	中学生の生活状況と性に関する意識・行動調査	中予保健所が実施した中予保健所管内の中学生と保護者を対象とした調査結果の統計分析に関わった。	中予保健所難病・母子保健係	報告書としてまとめ、関係諸機関に配布する。	
		保健・医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画合計数	13件		

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った	月1回（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成27年4月から平成28年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成27年4月から平成28年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成27年4月から平成28年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	NHK エデュケーショナル	”スイエンサー”放送企画内容、解説、出演依頼	電話・メール
野本百合子	専門職：看護師(県内複数の病院)	院内における看護研究に関する問題点について情報収集し、大学での支援の可能性について検討した。	メール
岡田ルリ子	専門職：看護師	「医療安全に関する研究」に着手したいとのことであったため、研究課題の絞り込みなど研究の進め方について助言し、文献検索を共に実施した。	来校
徳永なみじ	専門職：看護師	県内の病院に勤務する看護職員から、学会発表の方法とスライド作成、座長としての会場運営について助言し、スライド作成の技術的支援を行った。	対面
相原ひろみ	専門職：県内看護職者	県内の病院に勤務する看護職者から、看護研究のデータ収集及び分析方法についての相談を受けた。	メール
越智百枝	高松市保健師	支援しているアルコール依存症患者及び家族へのかかわりについて相談があり助言を行った。	電話・メール
越智百枝	八幡浜市保健師	支援しているアルコール依存症患者及び家族へのかかわりについて相談があり助言を行った。	電話・メール
越智百枝	一般市民	平成27年11月29日に開催した市民公開セミナーの受講者から相談があり助言を行った。	メール
越智百枝	アルコール依存症者の家族	家族会の設立についての相談を受け、助言を行った。	応対
越智百枝	アルコール依存症患者	未治療の当事者の支援方法について相談を受け、助言を行った。	応対

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
田中美延里 奥田美恵	専門職・保健師	実践報告についての相談を受け、助言を行った。	電話・メール
田中美延里	専門職・保健師	事例報告についての相談を受け、助言を行った。	電話・メール
窪田静	県内の重度障害者	車いす seating 補装具交付準備	訪問
窪田静	県内の重度障害児	側彎手術後の吊り具適合	訪問
窪田静	県内の重度障害者	QOL向上支援	訪問
窪田静	県内の重度障害者	外出支援	訪問
窪田静	東京シネビデオプロデューサー	川嶋みどり先生企画、て・あーととノーリフティングケアの映像化準備	来校
窪田静	医療法人朝陽会 美須賀病院	看護実践の科学への連載原稿の遂行、補足原稿執筆	総師長、コアリーダーグループ
窪田静	ケアサポートまつやま・クロスサービス	訪問入浴、訪問介護における腰痛予防対策	訪問、来校
窪田静	株式会社いうら	開発への助言	訪問
窪田静	パラマウントベッド株式会社	開発への助言	来校、訪問
窪田静	株式会社プラッツ	開発への助言	訪問
窪田静	西村章デザイン事務所	開発への助言	来校、訪問
窪田静	茨城大学工学部森善一教授	開発への助言	訪問
窪田静	特別養護老人ホーム希望ヶ丘荘	リフト選定、吊り具適合指導	訪問
中平洋子	専門職：看護師	看護研究のすすめ方について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
入野了士	専門職：保健師	看護研究のポスター発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
入野了士	専門職：保健師	看護研究のポスター発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
入野了士	専門職：保健師	看護研究のポスター発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
入野了士	専門職：保健師	看護研究のポスター発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	電話・メール
窪田志穂	専門職：保健師（自主学習会（ざくざく学習会）メンバー）	活動をまとめた口演、ポスター発表の内容と方法について、助言を行った。	応対・メール
窪田志穂	専門職：看護師	事例報告について相談を受け、助言を行った。	応対
豊田ゆかり	一般	愛媛新聞に掲載された「認定看護師」「専門看護師」について、住民からの相談に電話対応した。	電話
豊田ゆかり	専門職（看護師・保健師）	研修会の資料作成・研究計画・学会発表等の助言を行った。	電話・メール・直接対応
今村朋子	専門職：助産師	施設の運営、必要書類の整備、安全確保に向けたシステム作りなどの情報提供・助言を行い、必要資料などを共に検討した。	電話・メール・直接対応
島田美鈴	専門職：看護師	平成 27 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会研修終了後、受講者の方から、今後の自施設での立ち位置や看護職としてあり方等について相談を受けた。参考になりような書籍を紹介した。	直接面談・メール
岡村絹代	専門職：介護福祉士	学会発表の資料作成について助言を行った	電話・メール
松井美由紀	専門職：看護師	看護研究に対してがん看護教育の専門家としての助言	面談およびメール
松井美由紀	看護教員	看護研究に対して教育者としての助言	面談
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	4 月： 研究およびその成果を学会発表するための原稿作成についての助言および指導を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	4 月 15 日： Lymphoma 患者の骨髄フローサイトメトリー（FCM）の結果について相談を受けた。骨髄浸潤の有無についての助言を求められ、FCM のヒストグラムを観察し所見を報告した。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	4 月 21 日： Lymphoma 患者の組織のフローサイトメトリー（FCM）の結果について相談を受けた。結果の解釈についての助言を求められ、FCM のヒストグラムを観察し所見を報告した。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	5 月 18 日： 急性白血病患者の骨髄所見について相談を受けた。形態所見とフローサイトメトリーの結果から、結果の解釈について助言した。	メール・電話

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	5月25日： Lymphoma 患者の末梢血のフローサイトメトリー (FCM) の結果について相談を受けた。結果の解釈についての助言を求められ、FCM のヒストグラムを観察し所見を報告した。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	6月11日： 認定サイトメトリー技術者の認定試験について問い合わせがあり、試験内容やポイントを助言した。	メール・ 電話
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	6月24日： 急性白血病患者の骨髄のフローサイトメトリー (FCM) の結果について相談を受けた。結果の解釈についての助言を求められ、FCM のヒストグラムを観察し所見を報告した。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	7月24日： plasmablastic lymphoma や myeloma、blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm を疑う場合、検査すべき抗体セットについて相談を受けた。必要とされる抗体セットと関連する文献について助言した。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	1月5日： 溶血性貧血疑いの患者について、末梢血や骨髄標本の形態所見について相談を受けた。結果の解釈についての助言を求められ、鏡検をして所見を述べた。	メール・ 訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	1月15日： 白血病疑いの患者の骨髄形態とフローサイトメトリー (FCM) の結果について相談を受けた。結果の解釈についての助言を求められ、鏡検と FCM のヒストグラムを観察し所見を述べた。	訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	3月5日： 血液検査担当技師5名とディスカッション顕微鏡を用いて、骨髄標本を鏡検し、骨髄標本の観察手順に則って、細胞密度から形態所見まで、観察のポイントを示しながら、症例検討を行った。	訪問
高田智世	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	日本臨床病理同学院主催の2級臨床検査士（臨床化学）の受験のための実習指導および助言	メール・ 直接
北尾 孝司	専門職：看護師(県内の病院)	「皮膚の常在菌の種類」に関して質問を受けて共に考えた。	面談
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「ESBL 産生菌」に関して質問を受けて説明した。	面談
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「ディスクによる薬剤感受性試験の CLSI」に関して質問を受けて説明した。	面談

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の検査機関)	「水からのレジオネラ菌の検査方法」「レジオネラ菌の推定検査方法」に関して質問を受けて説明した。	電話
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「チョコレート寒天培地の特徴と自家作成法」に関して質問を受けて説明した。	面談
北尾 孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	「検体採取に関する業務拡大について」に関して質問を受けて説明した。	面談
岡村法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	排尿障害のある小児の膀胱エコー検査についてメールで相談を受け、来校時に超音波診断装置を使用しながら助言を行った。	メール・ 来校
岡村法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	感覚神経伝導検査時に混入する雑音の対処法について電話相談を受け、HUM 対策について助言を行った。	電話
岡村法宜	専門職：臨床検査技師 (県外の大学)	前立腺肥大に関する研究論文作成に関する相談を受け、メールと電話で、10 回程度やり取りした。	メール・ 電話
		保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応合計数	64 件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
宮内清子	<p>公衆衛生看護活動に関する自主学習会 「ざくざく」</p> <p>構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約30名</p>	<p>愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研さんすることを目的に自主的に結成した学習会で、14年目を迎えた。隔月開催で、平成27年度は、本学の卒業生など新人保健師の参加が増加したため、世代別のグループ討論などを組み込むとともに、保健師本来の活動である「地域診断に基づく保健師活動」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向かって実践し、6回の学習会で報告・共有し、討論を行った。また、各メンバーのキャリアアップ等をテーマに実践報告を行うなど、討議方式で研修を行っている。平成27年度の特記すべき活動としては、14年間の本会の活動及び地域別部会の活動について評価し、四国公衆衛生学会に1題、愛媛県地域保健研究集会に3題の研究発表を行い、参加者の評価を得ることができた。</p>	<p>スーパーバイザーとして参加、ミニ講義、情報提供、テーマ学習への助言、研究発表の支援などの役割を担っている。</p>
宮内清子	<p>日本ALS協会愛媛県支部 構成メンバー：愛媛県内のALS患者・家族・支援者等</p>	<p>愛媛県内の在宅ALS患者・家族・支援者などで組織しており、総会・学習会・広報活動などを行っている。本学の学生祭には4年前からバザー・署名活動などの目的で参加し、学生との交流も少しずつ進んでいる。</p>	<p>「顧問」として、保健医療の専門家の立場から、社会的支援等の助言・支援、情報提供、相談に関わっている。</p>

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 谷本淳子 和田弥生	看護技術教育検討会 (愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員)	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の担当 ・学習会のための会場確保 ・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子（総括・企画・運営） 青木光子・谷本淳子（企画・運営） 岡田ルリ子・徳永なみじ・相原ひろみ・和田弥生（運営）	愛媛県看護教員 継続教育研修 (愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員)	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・調整 ・研修会でのファシリテータ・司会 ・会場の調整・提供
越智百枝	愛媛県断酒会	愛媛県断酒会ワンナイトセミナーに参加し、アルコール依存症、アルコール依存症者及び家族の心理と回復、家族のかかわり方についてミニレクチャーを行った。	研修会の講師
越智百枝	三島・川之江断酒会	三島・川之江断酒会主催の社会復帰推進研修会に参加し、愛媛県のアルコール医療の現状と、今後の断酒会の役割や展望について助言を行った。	研修会の講師
越智百枝	高松市保健所	平成19年から高松市保健所で行われているアルコール家族の集いに参加し、継続的に教室の企画・運営、保健師の役割などについて助言を行っている。また、教室参加者に対しては、毎回ミニレクチャーを行い、アルコール依存症、家族のかかわりの仕方などについての情報提供やグループ支援を行っている。	研修会の講師

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
越智百枝	香川県断酒会	家族の回復、当事者及び家族の心理、関わりの方方法についてミニレクチャーを行った。	研修会の講師
田中美延里 窪田志穂	上島町新任期のつどい	上島町新任期保健師の自主学習会に、離島保健師活動の研究者を招き、交流の機会をもった。	企画支援
窪田静	デンマークと補助器具を語り尽くす会	デンマークと補助器具の知識とスキルの高い医療・福祉専門職による研究会	コーディネート、スピーカー
窪田静	認定NPO法人うりずん	児童発達支援等の重症児レスパイト施設	リフト、ポジショニング等の技術指導
窪田静	一般社団法人日本ノーリフト協会	持ち上げない介護、抱え上げない看護を推進	様々な事業についての相談役
窪田静	一般社団法人て・あーて推進協会	手を用いた看護の技を開発・啓発	愛媛県内での啓発・普及活動のサポート
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約30名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会で、14年目を迎えた。隔月開催により、平成27年度は、昨年度学習した地域診断に基づく保健活動の内容から発展し「情報の可視化」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向けて実践し、6回の学習会で報告・共有し、討論を行った。グループワークを多く取り入れ、幅広い世代や職業分野のメンバーが意見交換ができるように運営にも工夫を取り入れている。	学習会内容の企画運営の助言や講師
豊田ゆかり	NPO法人 とベ子育て支援団体 ぽっかぽか	NPO法人 とベ子育て支援団体が活動する内容・計画について会議に出席し、大学の協力について及び活動内容について意見を述べた。	委員として助言

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
豊田ゆかり	砥部町	砥部町が企画した「砥部町赤ちゃんふれあい体験」において、当大学の学生と母子との交流会実施について助言。	地域交流センター長として助言
枝川千鶴子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2015～子どものいのちと体を守るお仕事体験	理事として企画・運営
中越利佳	いのちの懇談会 えひめ	生命尊重の啓発活動および妊娠葛藤相談 SOS,エンブリオ基金の運営にあたる NPO 団体	理事として企画・運営
高田律美	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2016～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
森久美子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2015～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
森久美子	えひめ女性財団,愛媛助産師会共催	パパママほやほや子育てセミナー	絵本読み聞かせ担当,パパママのしゃべり場ファシリテーター
藤原 紀世子	NPO 法人 とベ子育て支援団体 ぽっかぽか	2015 とベ子育てフェスタ	とベキッズお仕事体験 看護師のブースを担当
井上明子	NPO ラ・ファミリエ	こどものゆめプロジェクト 2015～子どものいのちと体を守るお仕事体験	助産師のブースを担当
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	・愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
		患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数	24 件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県介護保険審査会	県内市町における介護保険事業の実施において、住民から出された各種の申し立てに対する審査を実施する組織で、弁護士・保健福祉分野の専門職・公益代表等で構成されている。介護保険制度の適用が高齢者の生活と健康に資するよう、申請案件について審査の適正な実施に努めた。	保健福祉関係委員
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援委員会	市町の介護予防に関する施策の円滑な推進を目的に、平成18年度から設置されており、市町の介護予防事業の進捗状況の把握及び事業評価、地域包括支援センターの運営支援、介護予防事業のプログラム開発及び指導教材作成等を行っている。平成27年度は、前年度に改定した「介護予防に関する指針」を用いて、「複合プログラム」の地域への浸透、地域包括ケアモデル事業の支援と評価に取り組んだ。	委員長
宮内清子	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会	平成11年度から愛媛県の高齢者保健福祉対策に関する計画策定、進行管理、進捗状況及び成果の評価などを行う目的で設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の修正を行っている。平成27年度は、今年度からスタートした第6期計画に基づく事業の進捗状況の確認・評価を行うとともに、平成28年度の事業計画について審議を行った。向後3年間を担う委員の選定・委嘱が行われ、引き続き会長の役割を負うことになった。	会長
宮内清子	松山市社会福祉審議会	高齢者専門分科会、民生・児童委員審査専門分科会に所属し、担当分野の審議を行う。高齢者専門分科会では、平成26年度は、第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定年度に当たっており、第5期計画を評価し、向後3年間の事業推進の骨格となる計画策定について協議し計画書を作成した。策定した計画書は、会長とともに松山市長に報告し、計画に沿った事業の実現を要請した。民生委員分科会では、民生児童委員の交代の審査等に関わった。	審議会委員(学識経験者) 高齢者専門分科会副会長、民生児童委員部会委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	松山市社会福祉施設整備審査会	高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設等の設置・改修などが適正に行われることを目標に、申請書類の審査、ヒアリング、修正指導などを審査会の委員として担っている。特に、対象者の自立支援や災害時の支援の必要性、耐震化の問題等、全国的な課題を踏まえての検討に注力している。	委員(学識経験者)
宮内清子	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を目的とする学会。 評議員会に参加し、学会運営等に関する協議を行う。 また、平成24年度から、学会誌の査読委員を務めている。	評議員、学会誌査読委員
宮内清子	新居浜市地域包括支援センター運営協議会	新居浜市の介護予防事業の要である地域包括支援船体の運営に関する外部機関として設置されており、センター事業の的確かつ公平・公正な運営に関して助言・支援・評価を行う。また、市町が認可する介護予防関連施設の選定について、諮問を受ける。	委員(学識経験者)
宮内清子	松山市社会福祉協議会 社会福祉活動推進委員会	松山市の委託を受けて、松山市社会福祉活動計画の策定をはじめ地域福祉活動の計画(なもしプラン)の策定・進行管理、地区社会福祉協議会活動の支援を行う。	委員、アドバイザー
宮内清子	西条市介護保険事業計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成25年度は、26年度に策定した第6期計画の進行管理、災害に対する高齢者施設等の体制整備に関する規則等の整備について役割を果たした。	審議会委員(学識経験者)
宮内清子	松前町高齢者福祉計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成27年度は、26年度に策定した第6期計画の進行管理、介護保険サービスの資質向上について検討を行った。	委員(学識経験者)

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県障害者介護給付費等不服審査会	障害者自立支援法に基づく介護給付について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。平成 27 年度の審査案件は 1 件であった。	委員（専門職）
宮内清子	愛媛県看護協会「看護師等の育成に関する推進協議会」委員	愛媛県内の看護師等の研修の現状と課題を関係者が共通認識し、今後の育成の在り方を検討することにより、質の高い看護師等の確保・定着を図ることを目的に、平成 23 年度に愛媛県の委託事業として設置された。県内各地の特性やニーズに応じた研修体制の在り方について情報交換を行うとともに、5 年目の事業の進行について検討を行った。併せて、喫緊の課題とされている人材確保、特に地域格差の解消対策について協議を行った。	委員(看護教育関係者)
宮内清子	平成 27 年度介護職員等によるたんの吸引等を実施するための研修委員会(不特定の者対象) (特定の者対象)	平成 23 年度の介護保険法一部改正により、一定の条件下において介護職員等のたんの吸引等の医行為を実施することができることになり、各都道府県が研修を実施する必要性が生じたことから、受講者の実技及び筆記試験の可否を判定する目的で設置された。平成 27 年度は、長寿介護課及び障害福祉課の要請を受けて研修機関として参画し、事業の企画・運営・受講者の評価判定に関わった。	委員(専門職)
宮内清子	愛媛県障害児通所給付費等不服審査会	障害者総合支援法に基づく障害児の通所給付費について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員(専門職)
宮内清子	松山市社会福祉事業団	松山市社会福祉事業団が実施する事業の計画・運営について協議する理事会の構成員として、各種社会福祉事業の運営が適正に実施されているかについて審議に加わっている。また、事業団の知的障害者の就労支援事業である『パンなどの販売事業』は本学の学生祭とのコラボレーションが実現し、双方にとって有効な事業になっている。	理事(保健福祉学識経験者)

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県看護協会創立40周年記念事業企画委員会	昭和49年、愛媛県看護協会は、保健師・助産師・看護師の職種別の部会から、愛媛県の看護職の組織として1本化された。平成25年度から、40周年記念事業の実施に向けて委員会を立ち上げ、企画・運営に着手しており、これまで、理事・副会長などの役割を担ってきた立場から、本記念事業の企画・運営に参画した。平成27年度は、40周年記念誌の発刊に向けて、全体構成、プログラム作成、歴代会長による座談会の企画及び進行を担当し、平成28年6月の総会において公刊できる見込みである。	委員（役員経験者）
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（学術、がん対策担当）、編集委員
草薙康城	愛媛県女性の健康支援事業連絡協議会	愛媛県における、女性の健康の向上に寄与することを目的とする。	委員
草薙康城	日本妊娠高血圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	松山圏域活性化戦略会議	松山圏域における将来へのビジョンを作成する。	専門委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
草薙康城	愛媛県医師会 医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会加わる。	支援医
草薙康城	順風会	がん検診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における県委員会委員	委員
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の県委員会委員	委員
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	調停委員会	公害紛争処理法に基づく公害調停	調停委員
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	NPO 法人禁煙推進の会えひめ	喫煙の及ぼす有害性と禁煙の必要性を広く県内外に向けて啓発する。主な事業は世界禁煙デーに因んでの啓発活動、学校での喫煙防止教育、県や市町での禁煙啓発活動、研修フォーラムの開催	理事
鳥居順子	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	西予市における地域包括ケアシステム構築を推進するために発足する支援部会	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	第 59 回中国四国合同産業衛生学会	松山市で開催された第 59 回中国四国合同産業衛生学会の企画運営に携わる。	企画運営委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会委員	都市計画法第 78 条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的として活動している。主な活動は、月 1 回の定例会と年 1 回の学術集会の開催、学会誌の発行等である。	理事長 25 周年記念大会企画・実行委員
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年 1 回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催しており、その中で、教育講演「実践に活かすための看護研究」を実施した。	教育委員 第 35 回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	新人職員研修推進協議会（愛媛県看護協会）	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員
野本百合子	日本看護学教育学会	看護学教育の向上を図り、看護学の発展に寄与することを目的とし、看護学教育を行っている大学、短期大学、養成所、高等学校など多様な看護基礎教育機関に所属している教員や大学院教育に従事している教員や看護実践家などが活動している。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	査読委員
野本百合子	千葉看護学会	看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進するための組織として設立された。現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子 徳永なみじ	日本看護技術学会	本会は看護技術の検証と開発を追究し、もって看護実践の向上に寄与することを目的とする。平成27年度に松山市で開催される学術集会の開催に向け、企画・運営に関わっている。	第14回日本看護技術学会学術集会企画・実行委員
岡田ルリ子	社会福祉法人「南風会」	・精神障害者の支援活動 年間活動計画の立案と支援 ・監査等	評議員
徳永なみじ	日本看護科学学会	本会は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的に発足した。本会の主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、JANSセミナーの開催、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動などである。	第35回日本看護科学学会実行委員
徳永なみじ	日本看護研究学会	日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会であり、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、関係学術団体との連絡、提携等の事業を通して学会の目的を果たしている。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	第30回日本看護研究学会中国・四国地方学術集会企画実行委員
徳永なみじ 相原ひろみ	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事(書記)として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	監事 書記

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
相原ひろみ	日本看護研究学会	日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会であり、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、関係学術団体との連絡、提携等の事業を通して学会の目的を果たしている。この学会に投稿された論文を査読する役割を担っている。	学会誌査読委員
相原ひろみ	第35回日本看護科学学会	日本看護科学学会は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的に、1981年（昭和56年）7月25日に第1回の設立総会をもって発足致した。現在の主な活動は年1回の学術集会（総会も含めて）と、学会誌（電子媒体・和文誌：年4回、英文誌：年2回）の発行、委員会活動である。	学会実行委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする。	評議員 学会誌査読委員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。	学会誌査読委員
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	副会長
野村美千江	愛媛県後期高齢者医療広域連合懇話会	愛媛県後期高齢者医療の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに広域連合会長への意見具申等を行う。	委員
野村美千江	砥部町国民健康保険運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	委員長

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	砥部町総合戦略推進懇談会	急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、砥部町総合戦略の企画立案に資する意見・提言の聴取。	委員
野村美千江 入野了士	西予市地域包括ケアシステム構築支援部会	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムを構築するにあたり、生活支援・介護予防サービスについて地域の実態や課題に関する意見・提言の聴取。	委員
越智百枝	精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	愛媛県精神障害者地域移行支援協議会委員	精神障害者の地域生活への移行を促進し、移行に向けた支援を推進することを目的としている。	委員
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会委員長	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。今年度計画の事業の実施評価を行った。そのうちかかりつけ医と精神科、心療内科医との連携についての実態把握と報告書の作成等を主に行った。	委員長
越智百枝	日本看護研究学会評議員	平成 26 年 4 月より評議員の委嘱を受け、評議員会への参加にした。	委員
越智百枝	日本看護研究学会査読員	平成 27 年 8 月に開催される日本看護研究学会査読委員として学会発表 11 件の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を 1 件行った。	委員
越智百枝	高知女子学会査読委員	平成 26 年度査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を 3 件行った。	委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする。	学会誌査読委員
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員
田中美延里	松山市教職員研修研究委員会	松山市の学校教育に求められる教職員の研修についての研究を深める。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
窪田静	愛媛県看護協会	在宅ケア推進委員会	委員
窪田静	三輪書店	作業療法ジャーナル	編集同人
窪田静	愛媛県社会福祉協議会	第3回えひめ福祉用具フェア実行委員会	委員
窪田静	日本リハビリテーション工学協会	福祉機器コンテスト	審査員
奥田美恵	愛媛県看護協会 まちの保健室 運営委員会	愛媛県における「まちの保健室」の運営、ボランティア育成、看護の日記念行事の企画・運営を行った。	委員
奥田美恵	高知女子大学 看護学会誌	看護の実践・教育・研究の発展に貢献する。	査読委員
入野了士	愛媛県看護協会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施等を行った。	保健師職能委員
北原悦子	日本看護学教育学会	同学会の専任査読委員を平成15年4月から拝命し、現在、3期目（平成30年8月まで）27年度は継続教育に関する学会誌学術論文査読1編を担当。	学会誌専任査読委員
豊田ゆかり	松前町国民健康保険運営協議会	松前町の国民健康保険税・保険給付内容等に関して委員として出席協議に出席。	委員（学識経験者）
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾患児童等地域支援協議会	本年度立ち上げられた愛媛県慢性疾患児童等地域支援協議会の委員として、会の運営・企画を担当。	委員
豊田ゆかり	日本小児看護学会	同学会の査読委員として、論文査読・及び第26回日本小児看護学会抄録の査読を実施。	学会誌査読委員
豊田ゆかり	日本看護学会（急性期学会）	同学会開催のための委員として会の企画・運営・実施を担当。	委員
豊田ゆかり	地域包括ケアシステム人材育成プログラム開発会議	本年度活動が開始された、地域包括ケアシステム人材育成部会の運営・研修会企画・実施を担当。	委員長

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
枝川千鶴子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
中越利佳	日本助産師会 愛媛県支部	会員へのニュースレターの編集、発行	広報委員
中越利佳	日本看護学会 急性期学会	学会抄録の査読	査読委員
中越利佳	NPO 法人 エンブリオ愛媛	エンブリオ募金、生命尊重セミナーをとおした啓発活動	理事
中越利佳	日本看護連盟 愛媛県支部	看護教育部会にて研修会企画	役員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	愛媛助産師会の将来構想について検討を行った。 (今後も継続)	将来構想委員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	会員向けニュースレター(ひめじょ通信・年1回)の編集・発行、広報グッズ販売管理 新たに、メール配信システムの整備を行った。	広報委員長
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動。 研修・イベントの企画運営等	東予地区役員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	県内1カ所の助産所機能評価を行った。	機能評価員
高田律美	中四国産業衛生学会	第59回中四国産業衛生学会	実行委員
高田律美	中四国学校保健学会	中四国学校保健学会	監事
中西純子	一般社団法人 日本看護研究学会	・看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動 ・編集委員会委員として論文査読委員の選定、結果判定、査読システムの整備等	理事 編集委員・査読委員
中西純子	日本看護研究学会第41回学術集会	・学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	一般社団法人 日本看護研究 学会 中国・四国地 方会	・地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進 (学術セミナー)、ニューズレターの発行、運営委員会、 学術委員会の開催等。	運営委員(副会 長)
中西純子	日本看護科学 学会	・看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	代議員
中西純子	日本看護診断 学会	・看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学 会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委 員
中西純子	愛媛県看護部 長・教務責任 者協議会	・県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとと もに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。 ・年1回の総会および年2回の研修会開催	理事・監事
中西純子	平成27年度 介護職員等 によるたんの吸 引等のための 研修実施委員 会(特定の者 及び不特定の 者)	・研修の企画、準備、運営、実施 ・試験問題の作成、実施、合否判定	実施委員
中西純子	高知県立大学 看護研究倫理 審査委員会	・左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどう か、外部委員として参加	外部委員
中西純子	高知女子大学 看護学会	・高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学 術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など ・左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委 員
中西純子	日本看護学教 育学会	・看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	学会誌査読委 員
中西純子	日本看護学教 育学会第25 回学術集会	・学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	・ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員
中西純子	第46回日本看護学会－急性期看護－	・日本看護協会が主催する学術集会。	口演の座長
中西純子	日本がん看護学会	・がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	代議員・学会誌査読委員
中西純子	第31回日本がん看護学会企画委員会	・学術集会の企画ならびに運営検討	企画委員
島田美鈴	高知女子大学看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献する。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など。	学会誌査読委員
島田美鈴	第46回日本看護学会－急性期看護－学術集会抄録選考委員会	日本看護学会の発展に貢献する。第46回学術集会の開催にあたり、学会発表抄録の選考を行った。	抄録選考委員会委員
島田美鈴	第46回日本看護学会－急性期看護－座長	第46回日本看護学会－急性期看護－の患者教育に関する演題（9群）の座長を行った。	学術集会座長
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会	糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の査読。	学会誌専任査読委員
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会編集委員会	糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の編集。論文投稿支援に向けた研修・セミナーの企画、運営。	編集委員
西田佳世	社会福祉法人広寿会 第三者委員会	高齢者施設利用者の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援する。利用者・家族の苦情対応および施設サービス向上の推進を図る。	第三者委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
西田佳世	日本看護研究学会中国・四国地方会	日本看護研究学会の中国・四国地方の会員の研究活動の推進と成果報告。学術委員会の企画・運営。	運営委員 学術委員
西田佳世	日本看護研究学会中国・四国地方会第29回学術集会	学術集会における示説の座長を務めた。	示説座長
西田佳世	愛媛県認知症施策推進会議	愛媛県の認知症の人々とその家族を取り巻く施策に関する推進および検討。	愛媛県認知症施策推進会議委員
西田佳世	日本看護研究学会第41回学術集会	学術集会の運営。	運営委員
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会第20回学術集会	学術集会における口演の座長を務めた。	口演座長
岡村絹代	愛南町愛なん食育プラン協働委員会	食育推進協議会・食育プラン協働委員会に参加し、中期計画の評価・第2期食育推進計画の策定について、助言を行った。	委員
岡村絹代	愛南町ぎょしょく普及推進協議会	愛南町水産物の利用促進活動の推進と、ぎょしょく教育を柱とした、ぎょしょく普及活動の推進に向けて助言、情報提供を行った。	委員
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価	委員
松井美由紀	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価	企画連絡会構成員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ・ジャパン愛媛実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
松井美由紀	第46回日本看護学会－急性期看護－	日本看護協会が主催する学術集会。	口演の座長
松井美由紀	第35回日本看護科学学会学術集会	学術集会の当日運営	実行委員
宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価	実行委員
佐田 榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田 榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会四国支部の運営に参加。	評議員
佐田 榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会、秋期大会の学術内容の企画に参画した。	コア・プログラム委員、プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行った。	学会誌査読委員
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動。	評議員
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	・愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席	精度管理専門委員会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	・松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	・臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究について、各領域の学問の発展に貢献することを目的で設立された。 ・中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員
伊藤 晃	(一社)愛媛県臨床検査技師会	・愛媛県精度管理委員会 愛媛県内の臨床検査施設を対象とした外部精度管理調査を実施し、報告書を作成する。	精度管理委員会顧問
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
野島一雄	日本臨床検査技師教育学会	臨床検査技師教育を実施する会員の資質向上を図るため、広く情報交換に努め、教育研究活動等を行い、もって臨床検査技師教育水準の向上と保健福祉に寄与する。	評議員
野島一雄	日本時間生物学会	時間生物学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	監事

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
北尾孝司	日本臨床検査医学会中国四国支部	臨床検査医学(臨床病理学)に関する学理およびその応用についての研究発表, 知識の交換, 会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより, 臨床検査医学(臨床病理学)の進歩・普及を図り, もってわが国の学術の発展に寄与する。	評議員
佐川輝高	任意団体 伊予理科教室実行委員会	砥部町にて夏休み理科教室を開催している。企画立案、内容立案、助成金獲得、講師を行っている。	代表
		行政や各種関係団体の理事・委員等の活動合計数	143 件

V 学生の地域交流 活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績

(1) ボランティア登録数 個人登録 38人、 団体登録 2団体 (平成28年3月現在)

(2) ボランティア募集のメール発信呼びかけ件数

外部団体からの要請および地域交流センター事業 12件

(3) ボランティア活動の実績

①学生ボランティア登録制度利用の実績 (参加のあったもの)

学生ボランティア登録制度利用の実績 (平成27年度)

	名 称	主催	時 期	場 所	参加 学生数	活動の内容
1	愛媛県障害者 スポーツ大会	愛媛県	5月19日 (日)	愛媛県 総合運動 公園	STS 30名 sign 3名 計 33名	大会運営補 助、ソフトボ ール投げと立 幅跳びの表彰 場への誘導係
2	地域交流 そうめん流し	ヨシケンコーポ レーション	6月13日 (土)	小規模多 機能ホー ムいしい	2名	そうめん流し の手伝い
3	とべ子育てフェスタ	特定非営利活動 法人 ぽっかぽか (地域交流セン ター事業)	6月28日 (日)	砥部町 保健セン ター	5名	お仕事体験ブ ースのお手伝 い(看護師、 臨床検査技師 ブース)
4	「子どものいのちと 体を守るお仕事体 験」イベント	特定非営利活動 法人 ラ・ファミ リエ (地域交流セン ター事業)	8月23日 (日)	エミフル MASAKI グリーン コート	9名	お仕事体験ブ ースのお手伝 い(看護師、 助産師、臨床 検査技師ブー ス)
5	「秋の全国交通安全 運動」キャンペーン	松山南警察署	9月25日 (金)	国道33号 砥部車両 計量所	8名	愛媛県立医療 技術大学生参 加による交通 茶屋

6	おもしろ理科教室	地域交流センター	10月24日 (土) 10月25日 (日)	本学北棟	3名 3名	子どもと保護者対象の理科実験
7	リレー・フォー・ライフ (実行委員会)	RFL2015 えひめ 実行委員会	10月17～ 18日(土日)	城山公園	5名	実行委員会のメンバーとして企画から参加
8	リレー・フォー・ライフ (リレー参加・ボランティア)	RFL2015 えひめ 実行委員会 (地域交流センター事業)	10月17～ 18日(土日)	城山公園	ボランティア 32名 リレー47名 計79名	24時間リレーウォークほか

ボランティア参加学生数(のべ)147名(リレー・フォー・ライフを含む)

*なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボランティアもある。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書107ページに掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル4つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ大作戦について紹介する。

自治会主催 クリーンアップ大作戦

11月28日(土)にクリーンアップ大作戦と球技大会を行いました。

クリーンアップ大作戦では大学とその周辺(23号線沿い、大学の南側の川沿い)の美化活動を行いました。約60名の方々に参加していただきました。約2時間の活動となりましたが、予想をはるかに越えるほど多くのごみを集めることができ、大学や地域に貢献できたと思っています。

また、日頃から美化活動に携わる方への感謝を忘れず、今後も身の回りの環境に目を向けていきたいと思っております。



平成 27 年度 STS サークルの活動について

代表 二宮 絵梨奈

私たち STS サークルは愛媛県内でボランティアを行うサークルとして活動しています。学生それぞれが松山市社会福祉協議会からの「おせったい通信」や、大学からの募集、先生方からの依頼などから自分が参加したいボランティアに参加しています。

平成 27 年度における主な活動内容としては以下の通りです。

- ・ 特別養護老人ホーム ひろたでのバザー
- ・ 第 10 回 愛媛県障害者スポーツ大会での運営補助
- ・ グループホーム いしい「地域交流そうめん流し」での食事介助
- ・ デイサービスセンターみかん 陸号館での介護補助
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめでの運営補助
- ・ デイサービスセンターみかん 式号館での介護補助

ボランティアでの交流を通して様々なことを学ぶことが出来ました。特に、病態の学習や異なる世代への理解、コミュニケーションスキルは今後にも活かせる財産だと思っています。

今後もボランティアを通して社会貢献をしていきたいです。ボランティアのお誘い、お待ちしております。



上の写真は、2015年5月24日に開催された『第10回 愛媛県障害者スポーツ大会』の様子です。

手話サークル Sign

部長 板坂 愛実

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に活動しています。数年後、私たちは医療従事者として働くことになります。そのため活動内容として主に医療現場での会話となる医療手話を講師の方からご指導いただき勉強しています。

5月に砥部町で開催されました愛媛県障害者スポーツ大会に、私たち手話サークルから数名の部員がボランティアとして参加いたしました。しかし、実際に手話で選手を誘導することなどできず、手話を活かすことができない自分の努力と能力の不足に部員の多くが無力さを募らせました。

学生祭で毎年行っている手話コーラスを、砥部町内の方々や部員のご家族の方が見に来てくださり、「よかったよ」「感動した」というお言葉を多くいただきました。その時の嬉しさや喜びは、5月に痛感した無力さを払拭させるものでした。

5月に手話で無力さを経験したことは私たちの大きな糧です。週一回一時間という限られた時間で活動する私たちの手話能力は、微力なものに過ぎません。それでも手話コーラスや日々の活動を地道に続けながら、これからも地域の方々の笑顔を見られるように、部員一同邁進してまいります。



Peer サークル紹介

代表：渡邊 彩花

私たち Peer サークルは愛媛県内の高校や大学等で活動を行っております。

Peer は「仲間」という意味があり、同世代の私たちと同じ目線・同じ立場で「性」について考え、自分自身と向き合って「相手のことだけでなく自分自身のことも思いやる大切さ」を実感してもらえるように活動しています。

「性」という言葉を聞くと、「恥ずかしい・人前で話しづらい」というイメージがあり、抵抗を感じる人も少なくありません。しかし、私は活動を通して「性」とは誰にとっても大切なもの、自分自身から切り離せないものであると感じています。また、性に関する悩みを持っている人が多いことも事実です。その悩みを友達のように相談できる相手が私たちでありたいです。同世代だからこそ打ち明けられることもあるのではないのでしょうか。それこそが Peer の良さでもあります。活動をさせていただいている中で、私たちも学ばせていただくことが多く、対象の学生と一緒に成長できる場にもなっています。

私たちは先輩たちから受け継いできた Peer サークルに誇りを持って活動しています。より多くの方々にこの活動を知っていただき、活動の幅を広げることが出来るようにこれからも精進していきたいと思います。



大学で高校生や大学生に対して活動を行っている様子。

このように近い距離で話をすることで表情などの反応を見ながら進めていくことが出来ます。

医技タット—H27 年度サークル紹介—

代表 松本 萌

私たち医技タットは、H26 年設立の災害医療ボランティアサークルです。「東日本大震災に学び、南海トラフ地震に備える」という理念の下、日々活動しています。Global Village program(通称：GV)という海外ボランティア活動では、前年度に引き続き、2013 年のハイエン台風で大きな被害を受けたフィリピンのバンタヤン島にて、10 日間の住居建築活動を行いました。東北派遣では宮城県を訪れ、3 日間の日程で沿岸部の視察や復興プログラムなどに参加しました。また、設立 2 年目となった今年度は、実践的な知識・技術を身につけ、実際の現場で生かしていくために、災害に役立つ医療系の資格取得を新たな活動として取り入れました。また、日々の活動を生かして、学生祭での企画や、砥部消防署での救命講習の受講、県内高校への出張セミナーを行いました。今まで学んできた成果をもとに、地域の方々と一緒に防災について考える良い機会となりました。今後もボランティア活動を継続しながら、地域とかかわる機会を多く作りたいと思っています。そして、これらの活動から多くのことを吸収し、地域の防災・減災について学びを深め、外部に発信したり、啓発活動を行ったりすることで、地域に還元していこうと考えています。



VI 地域への施設開放 状況

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）がおこなっている、ストレッチ教室の火曜教室開催にあたり、施設開放をおこなっている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～9月 9：30～11：30

10月～3月 10：30～12：30

開催回数：年間40回

利用者：砥部町住民

利用人数：30人程度/回、延べ人数1,183人

<参考資料>



VII 參考資料

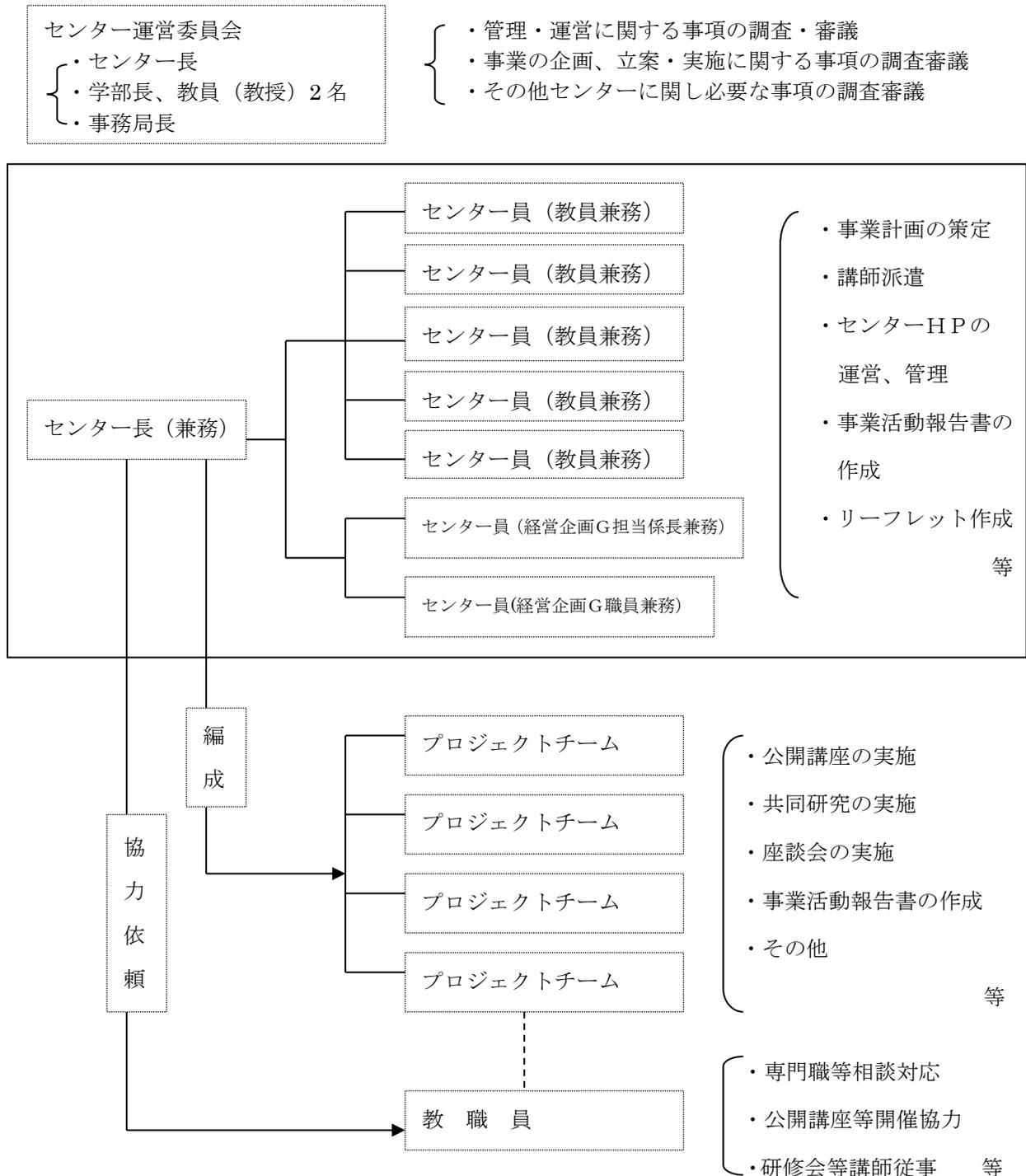
Ⅶ 参考資料

地域交流センターの組織（平成 28 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 7 名（教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地域交流センター運営図



(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

